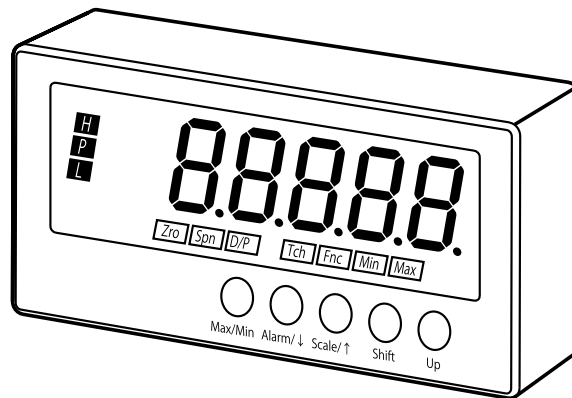


取扱説明書(操作)

デジタルパネルメータ 47NL シリーズ

4桁、LED表示タイプ、測温抵抗体入力デジタルパネルメータ
形式

47NLR



- このたびはエム・システム技研製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。
- ご使用前に9ページの「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- お読みになった後は、いつでもご覧になれるよう、付属の取扱説明書とともに大切に保管してください。また、本書は最終ユーザー様までお届けいただきますようお願いいたします。

もくじ

はじめに

はじめに

こんなことがしたい	4
各部の名前と働き	5
安全上のご注意	9
使用上のおねがい	11
取付ける	13
配線する	17

使ってみる (基本)

使ってみる (基本)

基本設定について	24
設定の基本操作と注意事項	26
温度単位を設定する	28
小数点位置を設定する	31
運転する	34

こまかく設定する (応用)

こまかく設定する (応用)

パラメータの構成	36
警報出力を設定する	41
警報出力数を変更する	44
警報設定値を設定する	46
警報動作(下限・上限)を変更する	49
警報出力のヒステリシスを設定する	51
警報出力の動作ディレーを設定する	53
警報出力の論理(励磁・非励磁)を変更する	55
警報動作時の表示点滅周期を変更する	57
入力の平均化処理をおこなう	59
表示の輝度を調整する	62
通常表示に自動復帰させる	65
バーンアウトを設定する	68
表示の更新周期を変える	70

便利な機能

便利な機能

警報設定値を確認する	74
最大値・最小値を保持する	75
ボタン操作を制限する	77
ボタン操作を制限する	78
プロテクト移行時間の設定	80

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

保守

ユーザ校正について	84
入力補正の方法	85
点検・清掃	88

困ったときには

故障かな?と思ったら	90
こんな表示がでたら	91
よくあるご質問	92
設定値を初期化する	93
ファームウェアバージョンを確認する	95

アフターサービス

アフターサービス	98
保証	99
救済ワイド補償サービス	101

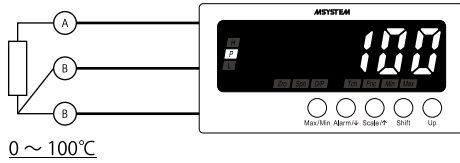
付録

仕様	104
形式	107
パラメーター一覧	108
パラメータマップ	110
表示コード	115

こんなことがしたい

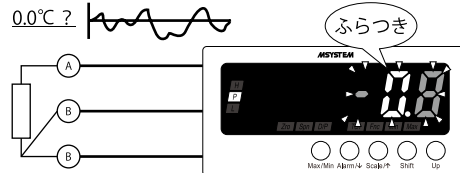
お問合せの多い内容を探しやすくしました。

温度を表示させるには？



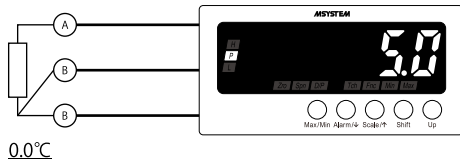
▶ 28 ページ

表示がふらついて困っています



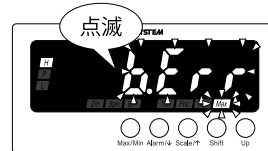
▶ 59 ページ

表示がずれて困っています



▶ 90 ページ

B.ERR が表示されています



▶ 91 ページ

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

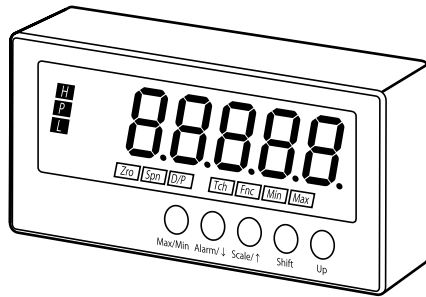
付録

各部の名前と働き

セット内容

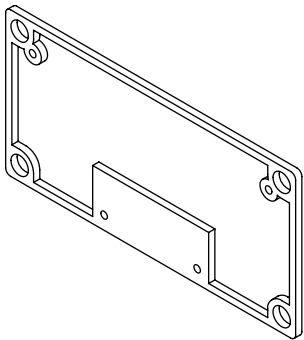
セット内容に不足がないか確認してください。

本体

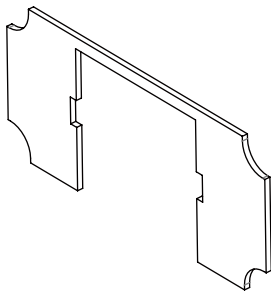


付属品

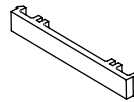
防水パッキン (1枚)



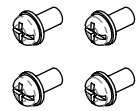
マグネットシート (1枚)



ストッパ (1個)



本体固定ねじ (4個)

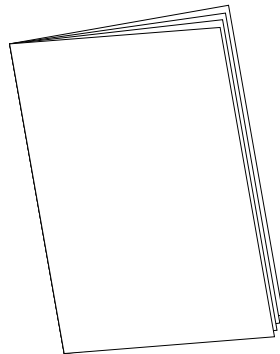


(ねじサイズ: M4 × 10)

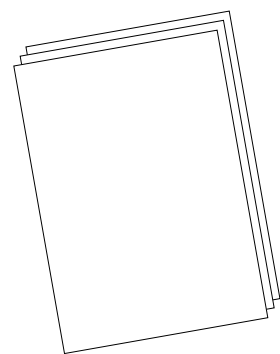
単位シール (1シート)

DC	AC	mV
V	kV	μA
mA	A	kA
mW	W	kW
var	kvar	Mvar
VA	Hz	Q
kΩ	MΩ	cm
mm	m	m/sec
mm/min	cm/min	m/min
m/h	m/s	inch
l	l/s	l/min
l/h	m ³	m ³ /sec
m ³ /min	m ³ /h	Nm ³ /h
N · m	N/m ²	g
kg	kg/h	V
kV	Pa	kPa
MPa	°	°/h
°C	°F	%RH
J	kJ	MJ
rpm	sec	min
pH	%	ppm
NXXXXX		

取扱説明書



仕様何書



(オプションコード: /SET のときのみ)

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

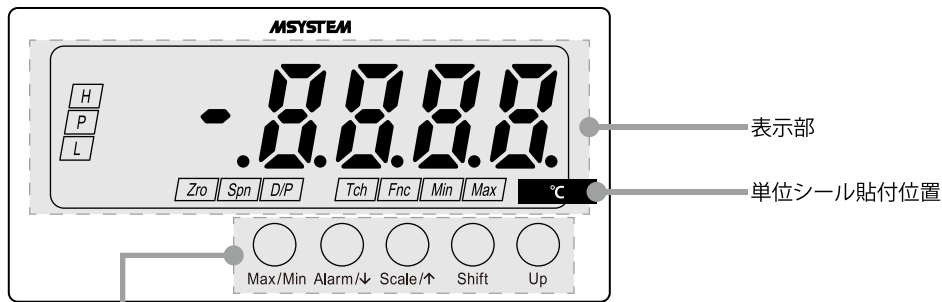
保守

困ったときには

アフターサービス

付録

本体前面



ボタン名称	機能
Max/Min	現在値・最大値・最小値の表示切替と、最大値・最小値リセットに使用 設定中のパラメータを設定前に戻すときに使用
Alarm/↓	警報設定値の確認、各モードへの移行、および各設定モードで表示するパラメータを切替えるときに使用
Scale/↑	各モードへの移行、および各設定モードで表示するパラメータを切替えるときに使用
Shift	パラメータの設定値を変更するときに使用 設定値が変更可能状態のときは、設定値の桁移動に使用
Up	設定値が変更可能状態のときは、設定値の変更に使用

MEMO

- 弊社推奨の単位シール貼付位置です。
- 仕様同書にて単位シールをご指定いただいた場合に限り、上記位置に単位シールを貼付して出荷します。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

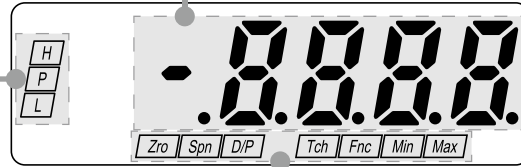
困ったときには

アフターサービス

付録

表示部

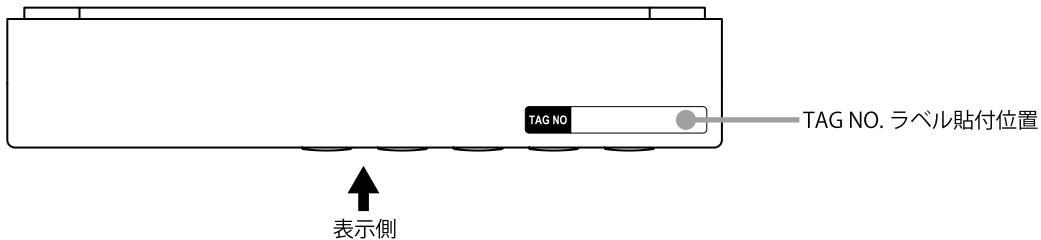
名称	機能
メインディスプレイ	現在値・最大値・最小値、パラメータ名、設定値、エラーコードを表示



ランプ名称	モード	機能
警報判定ステータス	パラメータ設定中	警報値設定モードのパラメータを示す ▶ 41 ページ
	警報設定値確認中	各警報設定値の確認 [H] [L] がそれぞれ点滅 ▶ 74 ページ
	計測モード中	警報設定値と現在値を比較した結果を表示 [H]: H 警報時点灯 [L]: L 警報時点灯 [P]: 上記警報条件に該当しない場合に点灯

ランプ名称	モード	機能
機能設定ステータス	パラメータ設定中	各モードのパラメータを示す [Zro] [Spn] [D/P] [Tch] [Fnc] がパラメータにより組合せて点灯 各パラメータで無効な設定の場合 [Max] [Min] 両方点滅
	計測モード中	最大値・最小値の表示 [Max] または [Min] 点灯 ▶ 75 ページ

本体上面

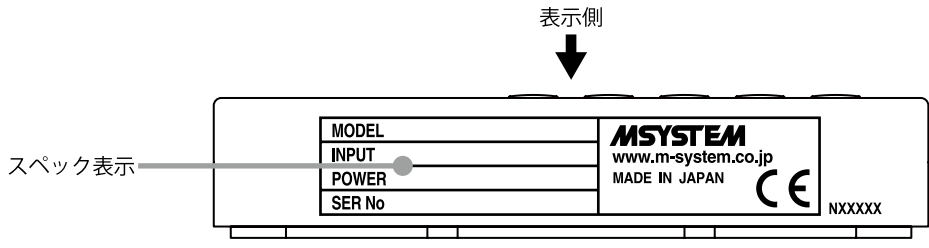


MEMO

- 弊社推奨の TAG NO. ラベル貼付位置です。
- TAG NO. をご指定された場合に限り、上記位置に TAG NO. ラベルを貼付して出荷します。半角英数字で最大 17 文字までご指定いただけます。詳しくは、エム・システム技研のホットラインへお問い合わせください。

はじめに
使ってみる (基本)
こまかく設定する (応用)
便利な機能
保守
困ったときには
アフターサービス
付録

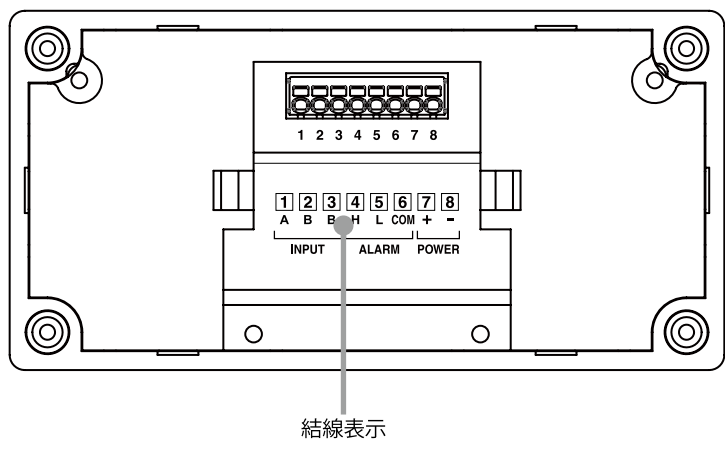
本体下面



MEMO

スペック表示の内容は仕様により異なります。

本体背面






安全上のご注意

必ずお守りください

この取扱説明書には、安全にご使用いただくために、いろいろな表示をしています。内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みにになり、記載事項をお守りください。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」を示しています。	 注意 「けがや財産に損害を受ける恐れがある内容」を示しています。
--	---

 中の絵や近くの文で、してはいけないこと（禁止）を示しています。	 中の絵や近くの文で、しなければならないこと（指示）を示しています。	 中の絵や近くの文で、注意を促す内容を示しています。
---	---	---

警告



注意

安全のため配線作業は、電気工事、電気配線などの専門の技術を有する方が行ってください。
・火災・感電・ケガの原因になります。



感電注意

通電中は端子に触れないでください。
・感電の原因になります。



指示

結線は端子接続図を十分確認のうえ行ってください。
・故障・火災・感電の原因になります。



指示

本器の故障や外部要因による異常が発生してもシステム全体が安全に働くように、本器の外部で安全対策を行ってください。



水ぬれ禁止

本体に水をかけたり、ぬらしたりしないでください。（正しく取付けられた状態の前面パネル部は除く）
・火災・感電・ケガの原因になります。



指示

煙・異臭・異音がでたときは、すぐに使用を中止してください。
・そのまま使用すると火災・感電の原因になります。



指示

落下・破損したときは使用を中止してください。
・そのまま使用すると火災・感電の原因になります。



禁止

本器を火中に投棄しないでください。
・電子部品などが破裂する原因となります。

はじめに

使ってみる（基本）

こまかく設定する（応用）

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

⚠️ 注意



分解禁止

分解や改造は絶対に行わないでください。
・感電・故障・ケガの原因になります。



禁止

電源を入れた状態では施工（接続、取外しなど）しないでください。
・感電・故障・ケガの原因になります。



指示

ねじ加工や配線工事を行うときは、本器に切粉や電線の切れ端などが侵入しないように十分注意してください。
・故障の原因になります。



禁止

先の尖ったものでボタンを操作しないでください。
・故障の原因になります。



禁止

本器に配線されている電線を引っ張ったりしないでください。
・感電・破損・ケガの原因になります。



禁止

可燃性ガスの雰囲気中では使用しないでください。
・引火・発火・発煙の原因になります。



指示

本器を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。
・条例の内容については、各地方自治体にお問合わせください。

使用上のおねがい

EC 指令適合品としてご使用の場合

本器は、EMC 指令に適合した製品です。

電磁両立性指令 (EMC 指令) (2004 / 108 / EC)	EMI EN 61000-6-4 : 2007 / A1 : 2011 EMS EN 61000-6-2 : 2005
---------------------------------------	--

- ・弊社の EC 指令適合品は各種機器、装置、制御盤などに組み込まれて使用されることを前提に要求される規格に適合しています。お客様で組込んだ機器、装置、制御盤の構成、配線状態、配置状態などにより EMC 性能が変化しますので、機器、装置、制御盤での最終的な CE マーキングへの適合は、お客様自身で実施していただく必要があります。



注意

本器は EMC 規格 工業環境に適合した製品です。家庭環境で使用すると無線妨害を起こすことがあり、その場合には使用者が適切な対策を講ずることが必要です。

設置について

設置にあたっては、設置仕様の範囲内でご使用ください。

- ・屋内でご使用ください。
- ・周囲温度が $-10 \sim +55^{\circ}\text{C}$ を超えるような場所、周囲湿度が $10 \sim 90\%RH$ を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は避けてください。
- ・放熱を妨げないよう、本器の周囲はふさがらないでください。(放熱スペースを確保してください)
- ・ねじ取付の場合は、板厚 $1.0 \sim 3.2\text{mm}$ のパネルに取付けてください。
- ・本器の内部温度上昇を防ぐため、風通しのよい場所に設置してください。
- ・複数台設置する場合は、多連取付の場合をご覧ください。また、他の機器を隣接する場合も、機器間の隙間は十分取って多連取付の場合の寸法に準じて設置してください。
- ・次のような環境での使用は避けてください。
 - 直射日光、風雨が当たる場所 (本器は屋外での使用を想定していません)
 - 急激な温度変化により結露が起こる可能性がある場所
 - 腐食性ガスや可燃性ガスの雰囲気中
 - 塵埃、鉄粉、塩分などが多い場所
 - ベンジン、シンナー、アルコールなどの有機溶剤や、アンモニア、苛性ソーダなどの強アルカリ物質が付着する可能性がある場所、またはそれらの雰囲気中
 - 振動や衝撃が伝わるような場所
 - 高圧線、高圧機器、動力線、動力機器、あるいはアマチュア無線など送信部のある機器、または大きな開閉サージの発生する機器の周辺

配線について

- ・感電の恐れがありますので、配線作業は供給する電源を遮断して、つなぐケーブルが通電されていないことを確認してから行ってください。
- ・端子への配線の際は、名称および極性を確認して正しく配線してください。
- ・空き端子には何も接続しないでください。

取扱について

- ・電源を入れると同時に動作しますが、全ての性能を満足するには 10 分以上ウォームアップをしてください。
- ・電源電圧および負荷は、仕様、定格の範囲内でご使用ください。
- ・モード移行時はモード移行直前の出力を保持しますので、これを考慮した制御をしてください。
- ・表面の汚れは、軽く水を含ませた柔らかい布で拭いてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。変形や変色の原因になります。
- ・本器から煙がでて、異臭がする、異音がするなどの異常が認められたときは、直ちに電源を遮断して、使用を中止してください。

防塵・防水に対応するには（保護等級 IP66）

前面パネルを防塵・防水に対応するには以下の条件に従ってください。

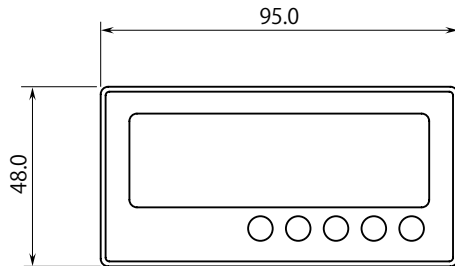
- ・ねじ取付の場合のみ対応します。
- ・弊社指定の寸法でパネルカットしてください。
- ・パネルに取付けるときは、本器との間に必ず防水パッキンを挿入してください。
- ・本器を M4 ねじにて 4 カ所を固定します。（トルク 0.6 ～ 0.9N・m）
- ・取付後、以下のような異常がないか確認してください。
 - 防水パッキンがねじれていないか
 - 前面パネルとパネルの間に隙間がないか
 - 防水パッキンがはみ出していないか
 - 防水パッキンが切れていないか
 - 異物が挟まっていないか
- ・防水パッキンの交換を希望される場合は、弊社ホットラインまでお問い合わせください。

取付ける

外形寸法図

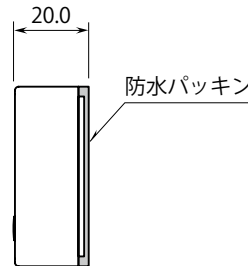
単位:mm

■前面図

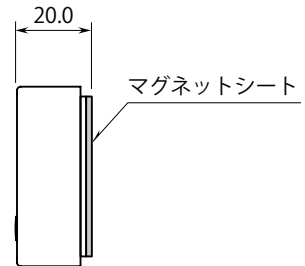


■側面図

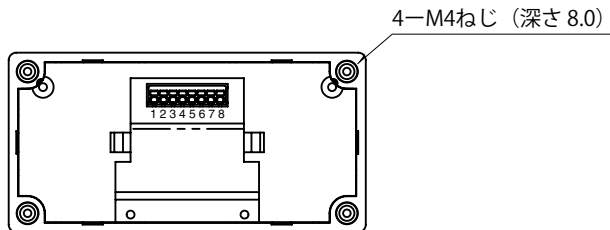
●ねじ取付時



●マグネット取付時



■背面図

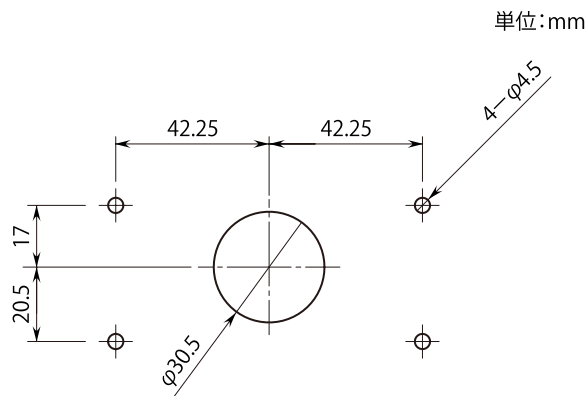


取付方法

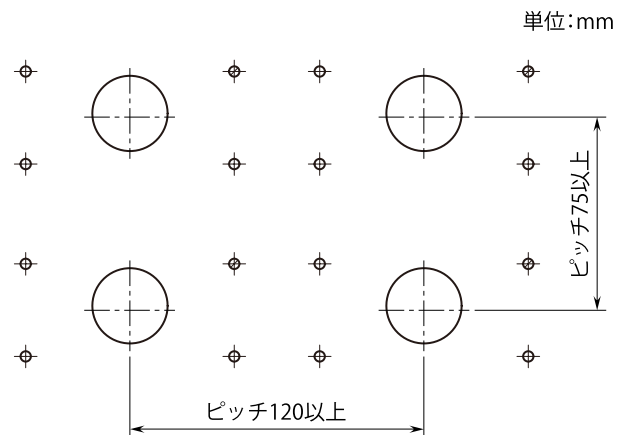
■ねじ取付の場合（保護等級 IP66 対応）

パネルカット寸法は次のとおりです。

●単体取付の場合



●多連取付の場合



重要!

電線を傷つける恐れがありますので、パネルカット加工後には加工面にバリを残さないよう除去処理してください。

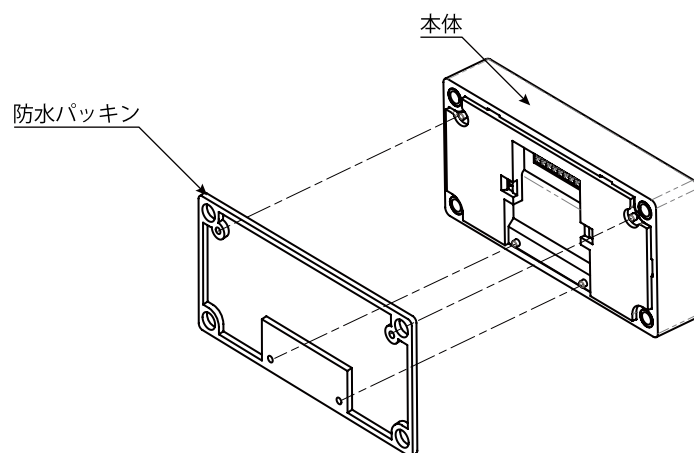
取付ける (つづき)

付属品は「防水パッキン」と「本体固定ねじ」を使用します。

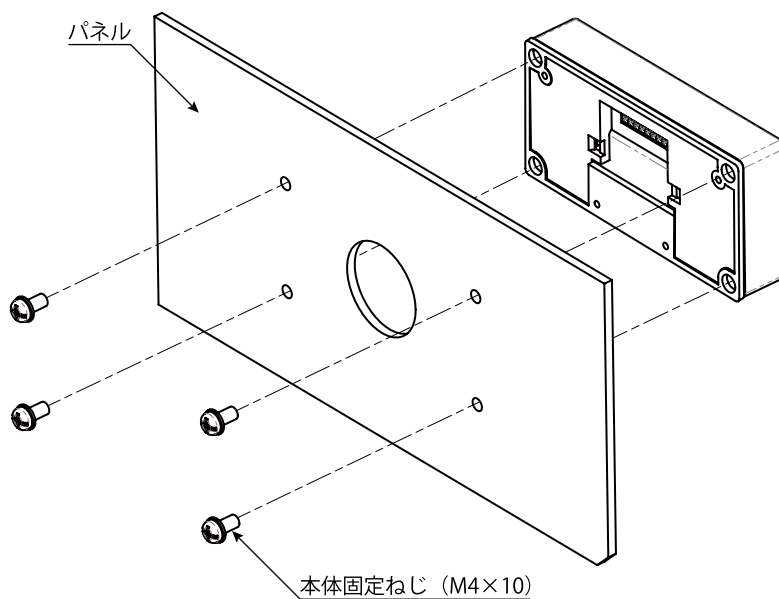
配線する前に、次の手順でパネルに取付けてください。

取付板厚：1.0～3.2mm

①防水パッキンを本体に取付けます。このとき防水パッキン凹部を本体凸部にはめ込んでください。



②本体固定ねじ (M4 × 10) でパネルに固定します。ねじ締付トルク：0.6～0.9N・m



重要!

保護等級 IP66 に対応するためには、取付後、防水パッキンがねじれたり、切れたり、大きくはみ出していないか確認してください。

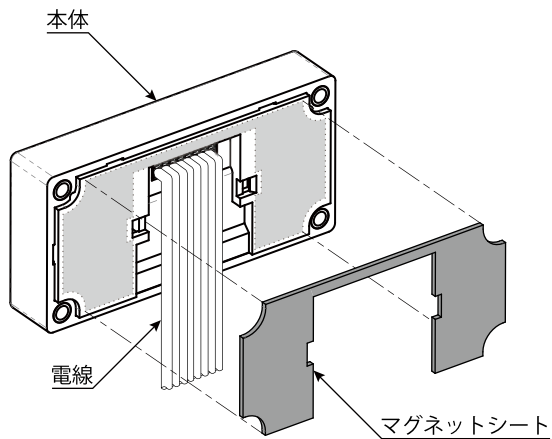
■マグネット取付の場合 (保護等級 IP66 非対応)

パネルカットは不要です。

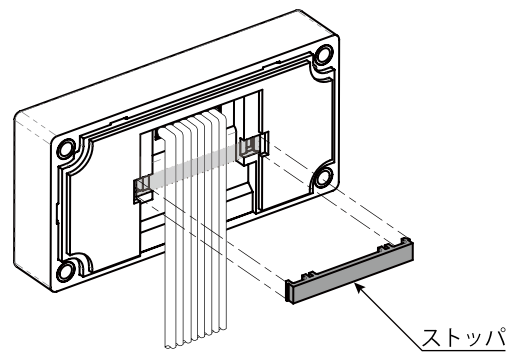
付属品は「マグネットシート」と「ストッパ」を使用します。

事前に配線を済ませ、次の手順で取付けてください。

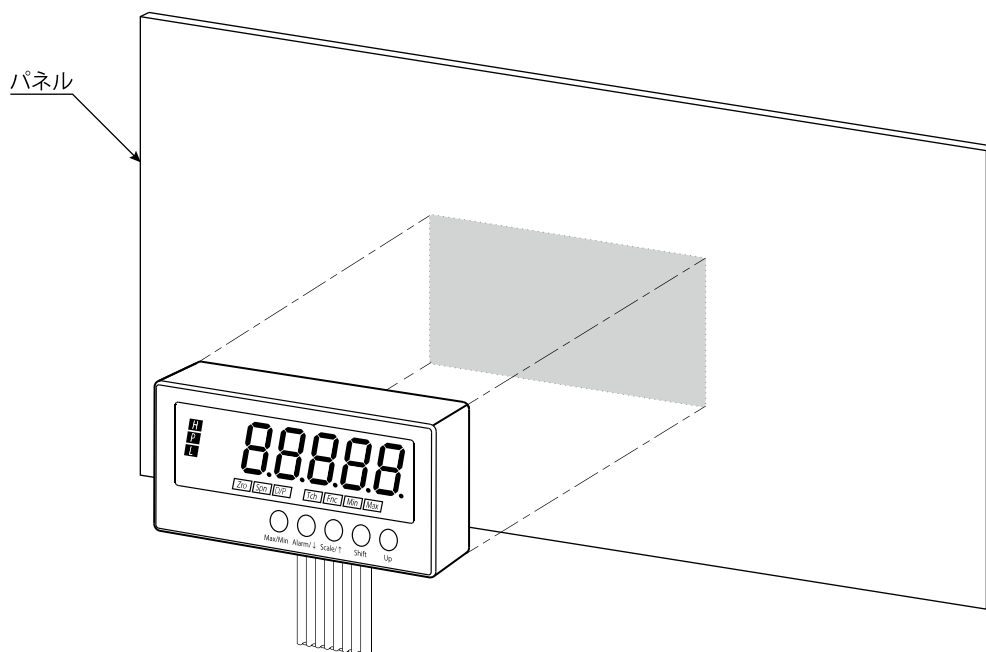
①マグネットシートの剥離紙を剥がし、本体に貼り付けます。



②本体にストッパを取付け、電線を固定します。



③本体を鉄製のパネルなどに取付けます。

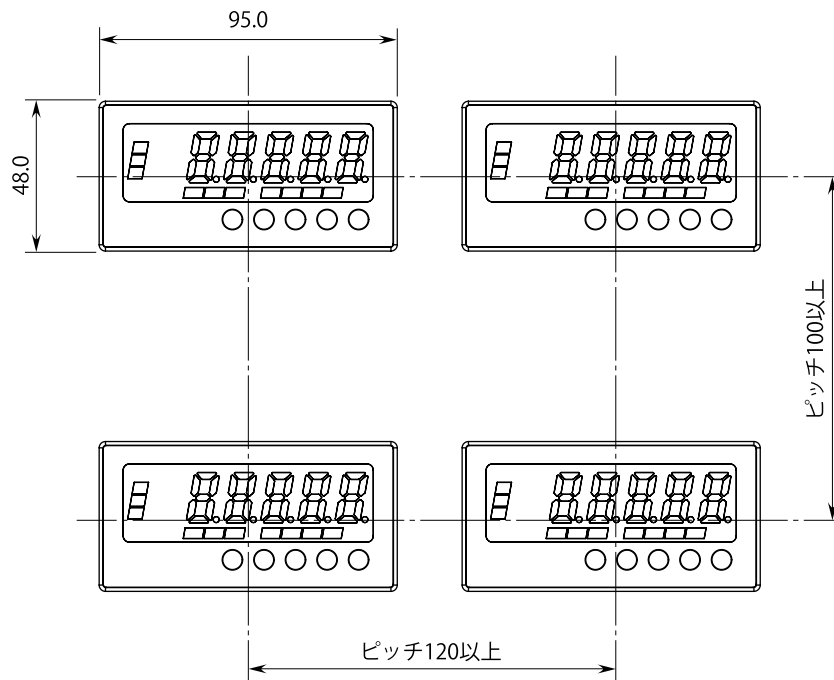


重要!

- ・ 振動・衝撃のある場所では使用しないでください。
- ・ 電線被覆は 2mm^2 以下のものを使用してください。

●多連取付の場合

単位:mm



はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

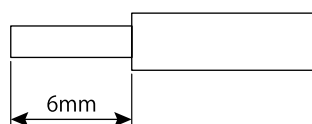
配線する

配線上の注意

- 配線作業は安全のため電気工事、電気配線などの専門技術を有する方が行ってください。
- 感電の恐れがありますので、配線作業は供給する電源を遮断して、つなぐケーブルが通電されていないことを確認してから行ってください。
- 端子への配線の際は、名称及び極性を確認して正しく配線してください。
- 空き端子には何も接続しないでください。
- 外部からの雷サージ侵入の恐れがある場合には、電子機器専用避雷器 M-RESTER シリーズをご用意しています。あわせてご利用ください。

電線について

- 適用電線サイズ：0.2 ~ 0.5mm²
- 剥離長：6mm



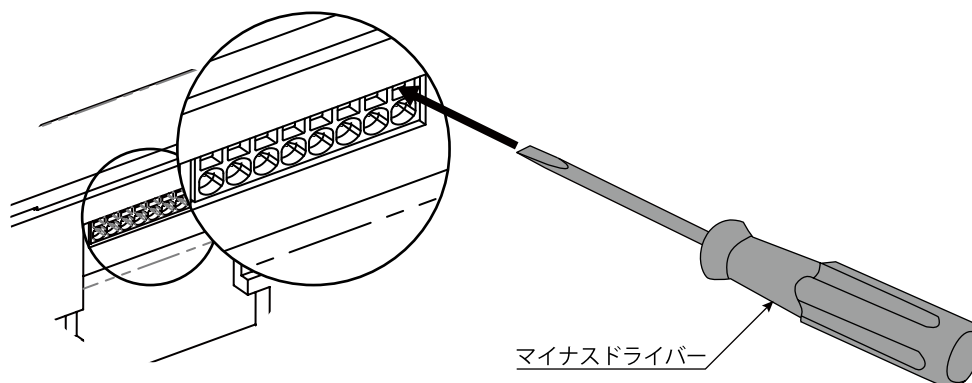
重要!

- 接触不良の原因になりますので、半田上げはしないでください。
- 圧着端子（フェールル）を使用する場合は、絶縁スリーブなしを使用してください。
- マグネット取付でご利用の場合、電線被覆は 2mm² 以下のものを使用してください。

電線接続方法

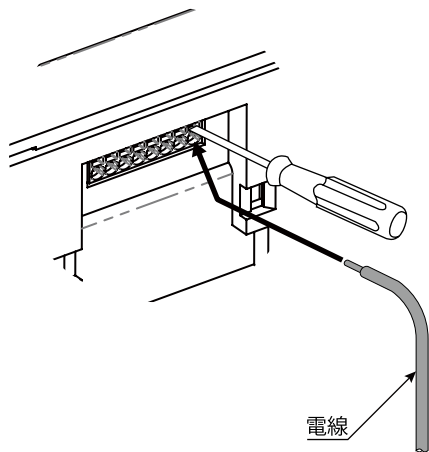
スプリング式端子台に電線を接続するにはマイナスドライバーが必要です。
刃先：0.4mm、刃幅：2mm のマイナスドライバーをご使用ください。
電線接続手順は次の通りです。

- ① マイナスドライバーを奥まで挿入し、スプリングを開放します。

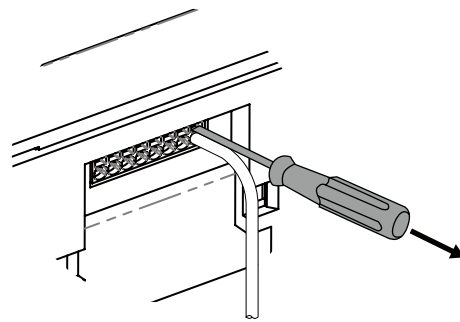


配線する (つづき)

②電線を奥まで挿入します。



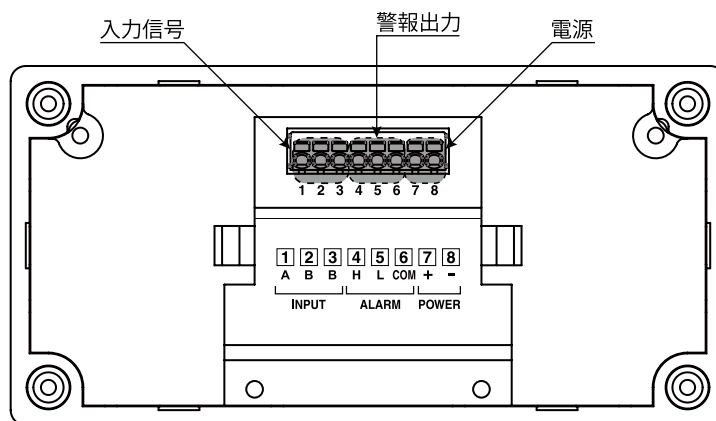
③マイナスドライバーを抜くと電線が固定されます。



重要!

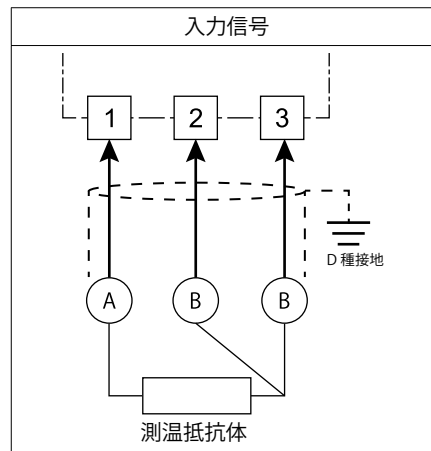
- 接触不良の原因になりますので、電線の被覆が端子にはさまらないようにしてください。
- 電線を軽く引っ張って抜けないことを確認してください。

端子配列



入力信号の配線

測温抵抗体を接続します。

**重要!**

- 電線の種類、太さ、長さは3線共同じものをご使用ください。
- 避雷器、バリヤなどの内部抵抗を含む導線抵抗の合計を1線あたり60Ω以下にしてください。
- 入力検出電流は0.5mA (Pt1000は0.05mA)です。規定電流0.5mA以上の測温抵抗体をご使用ください。
- 入力信号にはシールドを使用するなど、ノイズ混入を極力小さくしてください。ノイズによるトラブル防止のため、入力信号線のシールドは周辺の最も安定したアースに接地してください。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

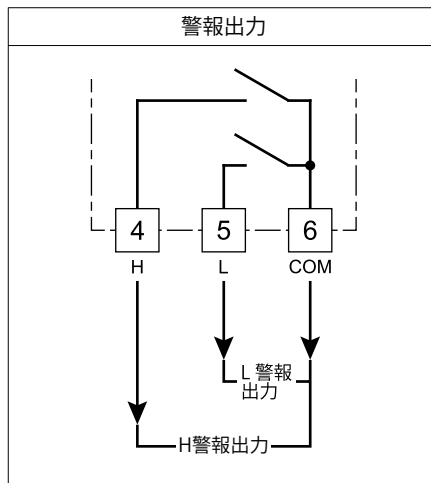
困ったときには

アフターサービス

付録

警報出力の配線

2点の警報接点が出力されます。

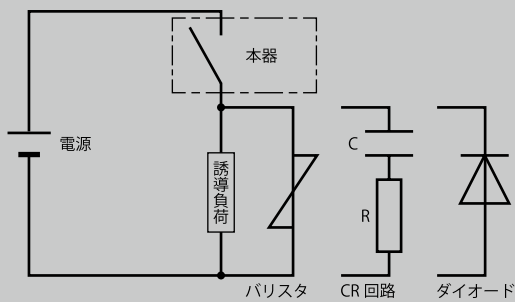


重要!

- 負荷は仕様範囲内のものを接続してください。
- 外付のリレーやモータなどの誘導負荷 (インダクタンス) の場合、接点保護とノイズ除去のため、CR 回路、ダイオードまたはバリスタを並列に挿入してください。

MEMO

誘導負荷の接点保護回路例



はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

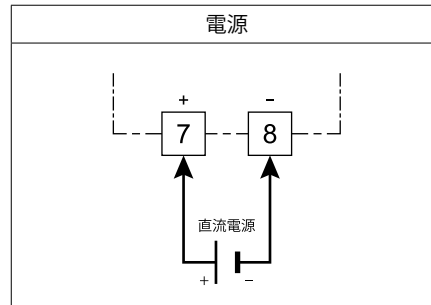
アフターサービス

付録

電源の配線

直流電源を接続してください。直流電源仕様は次の通りです。

形式コード	定格	許容範囲
R	24V DC	±10% 0.7W 以下

**重要!**

- 配線作業は安全のため電気工事、電気配線などの専門の技術を有する方が行ってください。
- 感電の恐れがありますので、配線作業は供給する電源を遮断して、つなぐケーブルが通電されていないことを確認してから行ってください。
- 極性に注意してください。

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

使ってみる(基本)

基本設定について	24
設定の基本操作と注意事項	26
温度単位を設定する	28
小数点位置を設定する	31
運転する	34

はじめに

使ってみる(基本)

こまかく設定する(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

基本設定について

基本設定の流れと手順を説明します。

ここでは、温度単位および小数点位置を設定する場合を例に説明します。

なお、温度単位を「℃」、小数点位置を「小数点以下1桁」でご使用になる場合は、基本設定の必要ありません。そのままご使用いただけます。

基本設定の流れ

基本設定の流れは次のとおりです。



基本設定の手順

ここでは、温度単位「℃」、小数点位置「小数点なし」に設定する手順を例に説明しています。実際にご使用される温度単位、小数点位置を設定してください。設定方法の詳細は「温度単位を設定する」以降をお読みください。

■基本設定パラメーター一覧

基本設定で使用するパラメータは次のとおりです。

パラメータ	設定値	機能設定ステータス	設定内容
温度単位			℃による温度表示
小数点位置			小数点なし

■基本設定の操作手順

基本設定の操作手順は次のとおりです。

1 配線を確認し、電源を投入して、初期設定モードに移行する (計測停止)

- **Scale/↑** を長押し (3 秒以上)

2 「温度単位」を設定する

- **Shift** で設定変更可能にし、**Up** で選択する

3 「小数点位置」を設定する

- **Alarm/↓** または **Scale/↑** でパラメータを移動する (前パラメータの登録を兼ねる)
- **Shift** で設定変更可能にし、**Up** で選択する

4 「計測モード」に戻る (計測開始)

- **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3 秒以上) (前パラメータの登録を兼ねる)

設定の基本操作と注意事項

パラメータを設定するときの基本操作と注意事項について説明します。

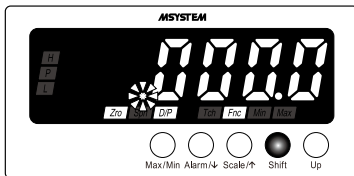
設定値の基本操作

パラメータには「数値設定」「設定値選択」の2つの設定タイプがあります。以下に、設定タイプ別にパラメータ設定の基本的な操作を説明します。

(1) 数値設定タイプ

1 **Shift** で変更可能状態にする

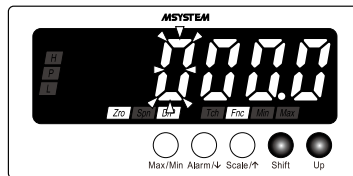
パラメータの最上位桁が点滅



※1 設定により表示内容は変わります。

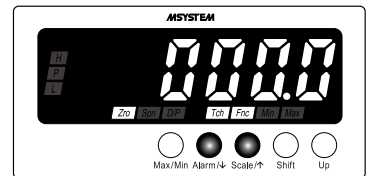
2 **Shift** および **Up** で数値を設定する

Shift で桁を移動
点滅している桁の数値を
Up で設定



3 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して登録する

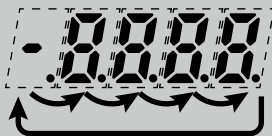
設定値が登録され、次のパラメータに移動



MEMO

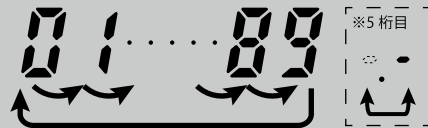
■桁の移動

Shift を押すたびに桁の点滅が右へ移動します。



■数値の設定

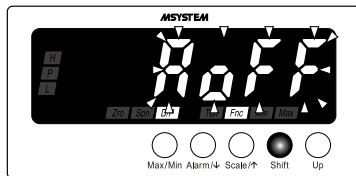
- **Up** を押すたびに数字が変わります。ただし、警報設定値の場合、「9」の次は「-」になります。
- マイナス符号は5桁目で設定します。たとえば「-40.0」の場合は、**04000** に設定します。



(2) 設定値選択タイプ

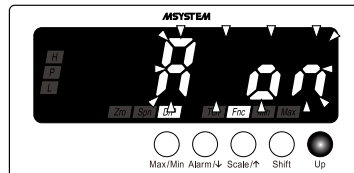
1 **Shift** で変更可能状態にする

現在の設定値が点滅



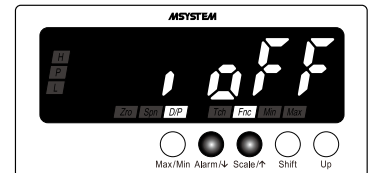
※1 設定により表示内容は変わります。

2 **Up** で設定値を選択する



3 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して登録する

設定値が登録され、次のパラメータに移動



基本操作時の注意事項

■無効な設定値の場合は・・・

- ・警報設定値で設定値の途中に「-」を設定した場合、**Min** **Max** ステータスランプが点滅します。その状態では登録できないため、有効な設定範囲で設定してください。

■無操作時間が長くなったときは・・・

- ・設定変更可能状態のときは設定タイムアウト時間（初期値：60 秒）で計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・上記以外の操作中のときは設定タイムアウト時間（初期値：60 秒）で計測モードに戻ります。
- ・設定タイムアウト時間は 65 ページの「通常表示に自動復帰させる」で変更できます。

■設定を破棄するときは・・・

- ・設定変更可能状態で **Max/Min** を長押し（3 秒以上）すると計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・設定の途中でわからなくなって修復不可能になったときは、設定を初期化してはじめからやり直すこともできます。初期化は 93 ページの「設定値を初期化する」をご覧ください。

■計測モードから各モードへ移行するときは・・・

- ・警報出力は各モードに移行直前の値を保持します。

■パラメータの表示順序について

- ・表示順序の詳細は 36 ページの「パラメータの構成」をご覧ください。

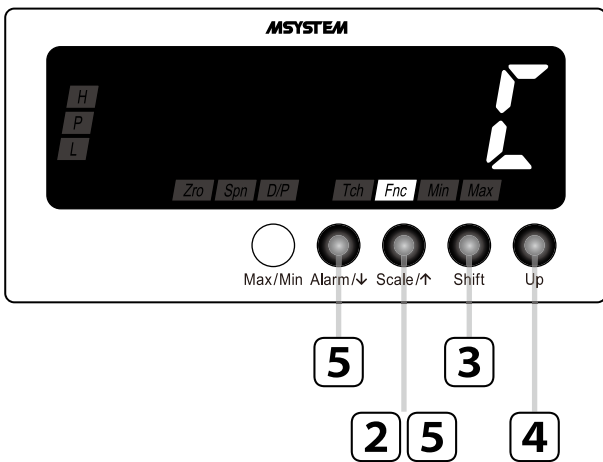
温度単位を設定する

温度単位を「℃による温度表示 []」または「°Fによる温度表示 []」より選択できます。工場出荷時設定（初期値）は「℃」です。

重要!

- 温度単位「°F」を日本国内での証明や取引に使用することは、計量法により禁止されています。
- 温度単位を変更した場合、警報設定値については設定値が破棄され [] に変わります。必要に応じて現在の設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 温度単位を変更した場合、入力補正 A 入力値・補正值、入力補正 B 入力値・補正值については初期値に戻ります。必要に応じて現在の設定値を記録しておくことをおすすめします。

操作手順



MEMO

- ここでは [] から [] に変更する手順を例に説明します。
- [] から [] に変更する場合は、読みかえて操作してください。

1 配線を確認し電源を投入する

約 5 秒間全ての表示が点灯後、計測モードに移ります。

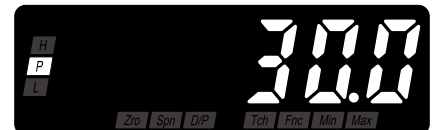
ご注意

- 表示が [] で点滅することがあります。入力が範囲外になっているため故障ではありません。
- 表示が [] で点滅することがあります。入力開放になっているため故障ではありません。

●電源投入直後(全表示点灯)



●計測モード

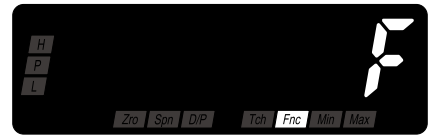


※1 設定や入力などにより表示内容が変わります。

2 **Scale/↑** を長押しして初期設定モードに移行する (3 秒以上)

[F] を表示します。

[Fnc] ステータスランプが点灯します。

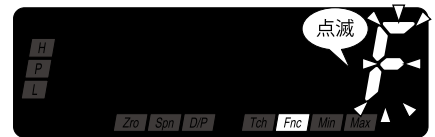


MEMO

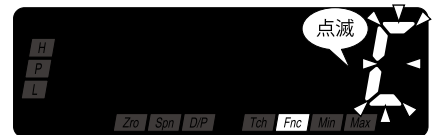
初期値でよければ手順6に進んでください。

3 **Shift** を押して温度単位を変更可能にする

表示が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Up** を押して **[F]** を選択する



5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して温度単位を登録する

温度単位が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **[Alarm/↓]** を押したときは、小数点位置が表示されます。設定により **[.000]** または **[.00]** が表示されます。
- **[Scale/↑]** を押したときは、入力補正 B 補正値が表示されます。設定により **[0000]** ~ **[9999]** の範囲で表示されます。

6

■続けて小数点位置を設定するときは・・・

32 ページの「小数点位置を設定する」の手順 3 から操作する

■終了するときは・・・

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る（3 秒以上）

MEMO

■無操作時間が長くなったときは・・・

- ・設定変更可能状態（手順 3、4 で表示が点滅状態）のときは設定タイムアウト時間（初期値：60 秒）で計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・上記以外の操作中のときは設定タイムアウト時間（初期値：60 秒）で計測モードに戻ります。
- ・設定タイムアウト時間は 65 ページの「通常表示に自動復帰させる」で変更できます。

■設定を破棄するときは・・・

- ・設定変更可能状態（手順 3、4 で表示が点滅状態）で **Max/Min** を長押し（3 秒以上）すると計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・設定の途中でわからなくなって修復不可能になったときは、設定を初期化してはじめてからやり直すこともできます。初期化は 93 ページの「設定値を初期化する」をご覧ください。

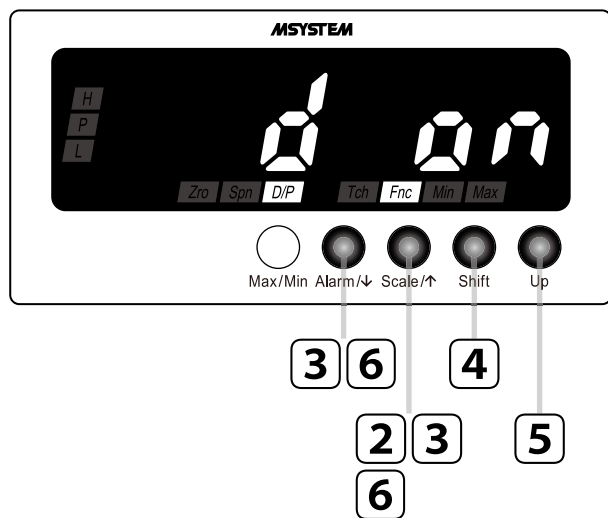
小数点位置を設定する

小数点位置を「小数点以下1桁」`[d.on]`または「小数点なし」`[d.off]`より選択できます。工場出荷時設定(初期値)は「小数点以下1桁」です。

重要!

- ・「温度単位」で「°F」を選択したときは、このパラメータは設定できません。
- ・「温度単位」を「°C」から「°F」に変更した場合、「小数点位置」は「小数点なし」に変わります。
- ・小数点位置を変更した場合、警報設定値については設定値が破棄され`[-----]`に変わります。必要に応じて現在の設定値を記録しておくことをおすすめします。
- ・小数点位置を変更した場合、入力補正A入力値・補正值、入力補正B入力値・補正值については初期値に戻ります。必要に応じて現在の設定値を記録しておくことをおすすめします。

操作手順



MEMO

- ・ここでは`[d.on]`から`[d.off]`に変更する手順を例に説明します。
- ・`[d.off]`から`[d.on]`に変更する場合は、読みかえて操作してください。

1 配線を確認し電源を投入する

約5秒間全ての表示が点灯後、計測モードに移ります。

ご注意

- ・表示が`[-----]`で点滅することがあります。入力が範囲外になっているため故障ではありません。
- ・表示が`[-----]`で点滅することがあります。入力開放になっているため故障ではありません。

●電源投入直後(全表示点灯)



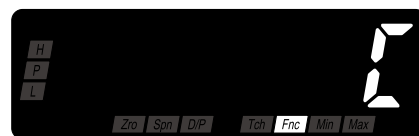
●計測モード



※1 設定や入力などにより表示内容が変わります。

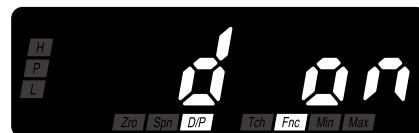
2 **Scale/↑** を長押しして初期設定モードに移行する (3 秒以上)

温度単位が表示されます。
[Fnc] ステータスランプが点灯します。



3 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して小数点位置に移動する

d.00 を表示します。
[D/P] **[Fnc]** ステータスランプが点灯します。

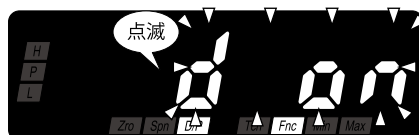


MEMO

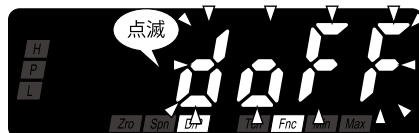
初期値であれば手順 7 に進んでください。

4 **Shift** を押して小数点位置を変更可能にする

表示が点滅し設定変更可能状態になります。



5 **Up** を押して **d.0FF** を選択する



6 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して小数点位置を登録する

小数点位置が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **[Alarm/↓]** を押したときは、入力補正 A 入力値が表示されます。設定により **□□□□□** ~ **□□□□□** の範囲で表示されます。
- **[Scale/↑]** を押したときは、温度単位が表示されます。設定により **□□□□** または **□□□□** が表示されます。

7

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

MEMO

■無操作時間が長くなったときは・・・

- ・設定変更可能状態 (手順 4、5 で表示が点滅状態) のときは設定タイムアウト時間 (初期値：60 秒) で計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・上記以外の操作中のときは設定タイムアウト時間 (初期値：60 秒) で計測モードに戻ります。
- ・設定タイムアウト時間は 65 ページの「通常表示に自動復帰させる」で変更できます。

■設定を破棄するときは・・・

- ・設定変更可能状態 (手順 4、5 で表示が点滅状態) で **Max/Min** を長押し (3 秒以上) すると計測モードに戻り、変更前の設定に戻ります。
- ・設定の途中でわからなくなって修復不可能になったときは、設定を初期化してはじめてからやり直すこともできます。初期化は 93 ページの「設定値を初期化する」をご覧ください。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

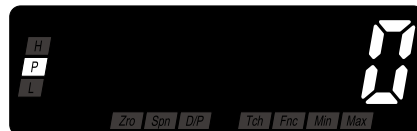
運転する

ここでは、入力信号 Pt100 (JIS'97、IEC) 測温抵抗体で 0 ~ 100℃ が正しく表示することを確認します。

重要!

運転する前にもう一度、正しく配線できているか、入力信号、供給電源が仕様の範囲内であることを確認してください。

1 入力信号 0℃ を入力したときに表示が「0℃」になることを確認する



※1 設定や入力などにより表示内容が変わります。

MEMO

■ 次のような表示がでたときは …

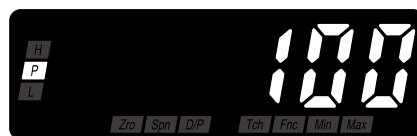
- **[Err]** が表示された場合は、入力信号が正しく入力されていません。測温抵抗体の種類、入力配線などを確認してください。なお、**[Min]** ステータスランプ点滅の場合は入力信号が過小、**[Max]** ステータスランプ点滅の場合は入力信号が過大です。
- **[Err]** が表示された場合は、入力線が断線しています。入力配線などを確認してください。

■ 警報判定ステータスについて

- 警報設定値により点灯する警報判定ステータスは変わります。表示例として警報判定ステータスの **[P]** ステータスランプが点灯しています。



2 入力信号 100℃ を入力したときに表示が「100℃」になることを確認する



MEMO

表示がずれている場合は、入力補正を行ってください。 ▶ 85 ページ

こまかく設定する(応用)

パラメータの構成	36
警報出力を設定する	41
警報出力数を変更する	44
警報設定値を設定する	46
警報動作(下限・上限)を変更する	49
警報出力のヒステリシスを設定する	51
警報出力の動作ディレーを設定する	53
警報出力の論理(励磁・非励磁)を変更する	55
警報動作時の表示点滅周期を変更する	57
入力の平均化処理をおこなう	59
表示の輝度を調整する	62
通常表示に自動復帰させる	65
バーンアウトを設定する	68
表示の更新周期を変える	70

パラメータの構成

モードについて

パラメータをグループ分けしたものを「モード」といいます。
本器では「モード」を次のように分類しています。

モード	機能	計測動作
計測	入力を取込み、警報動作を行う通常の計測状態です。計測モードでは現在値の表示のほか、最大値・最小値の表示、警報設定値の確認ができます。電源投入直後は計測モードになります。	計測
初期設定	温度単位、小数点位置などの基本設定や、入力補正 A 入力値・補正值、入力補正 B 入力値・補正值などを行います。	停止
警報値設定	警報設定値、動作、ヒステリシス、動作ディレー、励磁方向などの設定を行います。	
詳細設定	移動平均回数、輝度調整、バーンアウトなどの設定や、ファームウェアバージョンの確認ができます。	
プロテクト設定	不用意なボタン操作を防止するための設定を行います。プロテクトの内容により、モードの移行や設定値の変更を禁止します。	

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

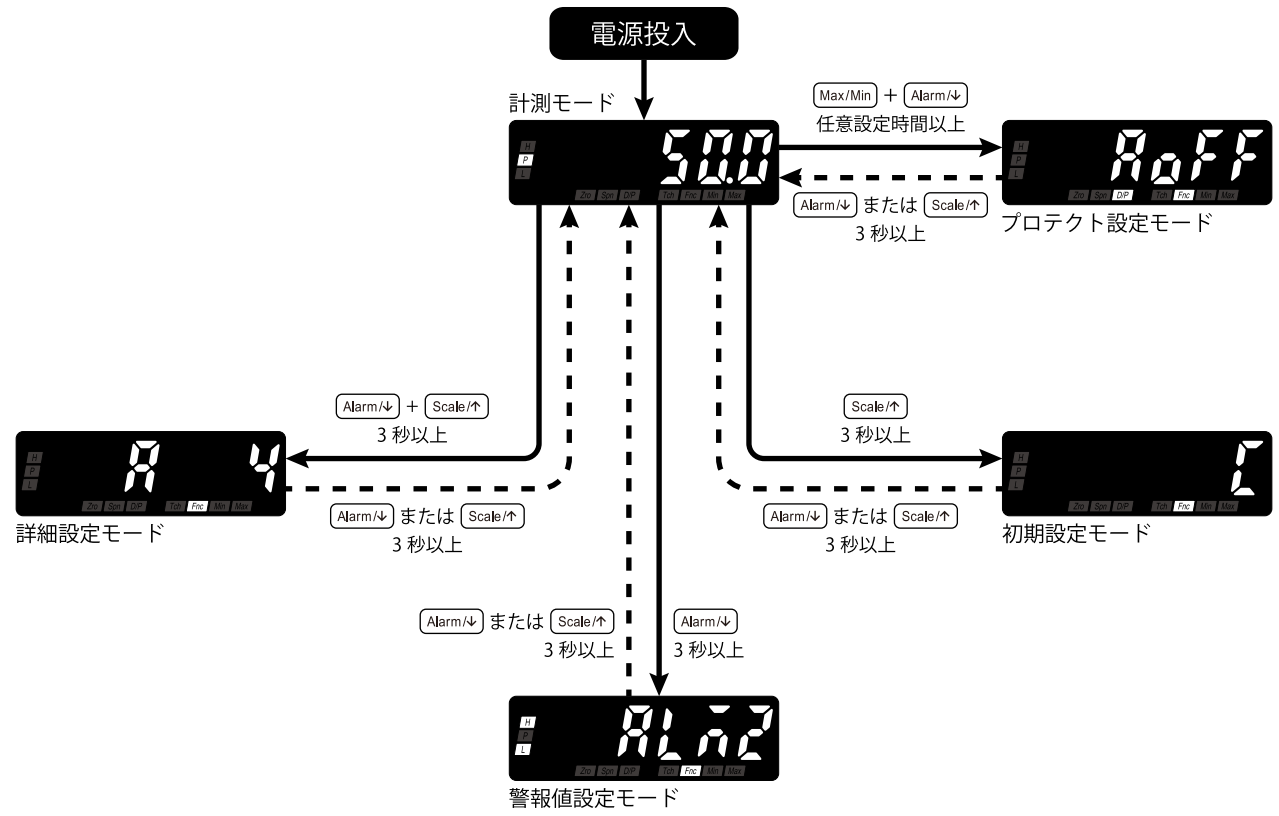
保守

困ったときには

アフターサービス

付録

モードの移行



■計測モードから各モードへ移行する

初期設定モードへ	計測モードで Scale/↑ を長押し (3秒以上) すると初期設定モードに移ります。
警報値設定モードへ	計測モードで Alarm/↓ を長押し (3秒以上) すると警報値設定モードに移ります。
詳細設定モードへ	計測モードで Alarm/↓ + Scale/↑ を同時に長押し (3秒以上) すると詳細設定モードに移ります。
プロテクト設定モードへ	計測モードで Max/Min + Alarm/↓ を同時に長押し (任意設定時間以上) するとプロテクト設定モードに移ります。

■各モードから計測モードに戻る

各モードから計測モードに戻るには **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3秒以上) します。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

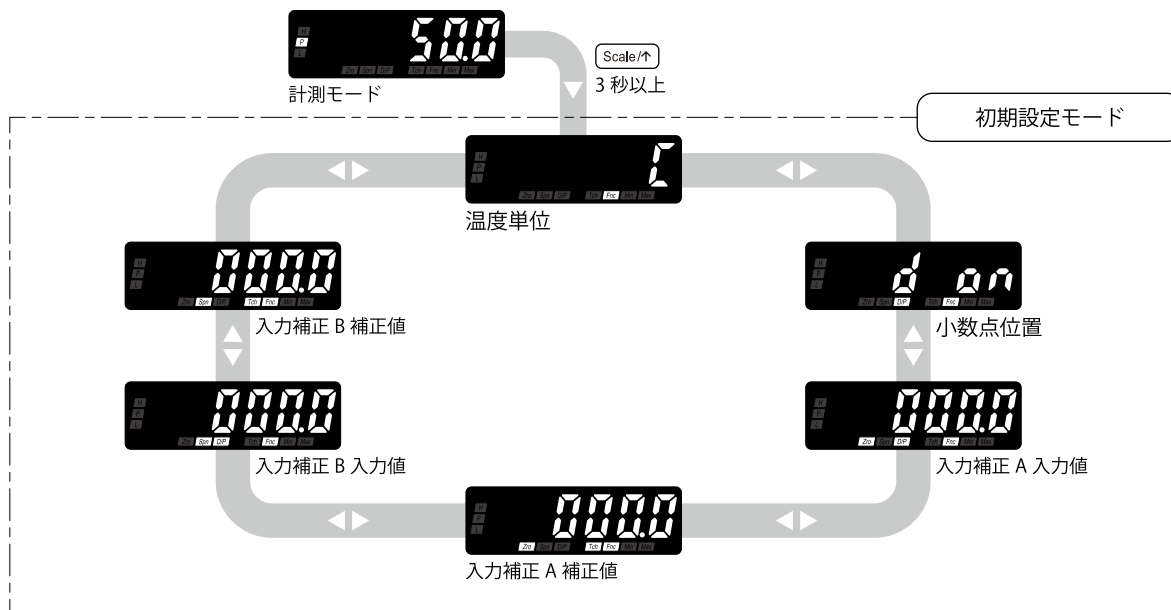
アフターサービス

付録

パラメータの移動

(1) 初期設定モード内の移動

初期設定モードに移行後、**Alarm/↓** で時計回り、**Scale/↑** で反時計回りにパラメータ間を移動します。

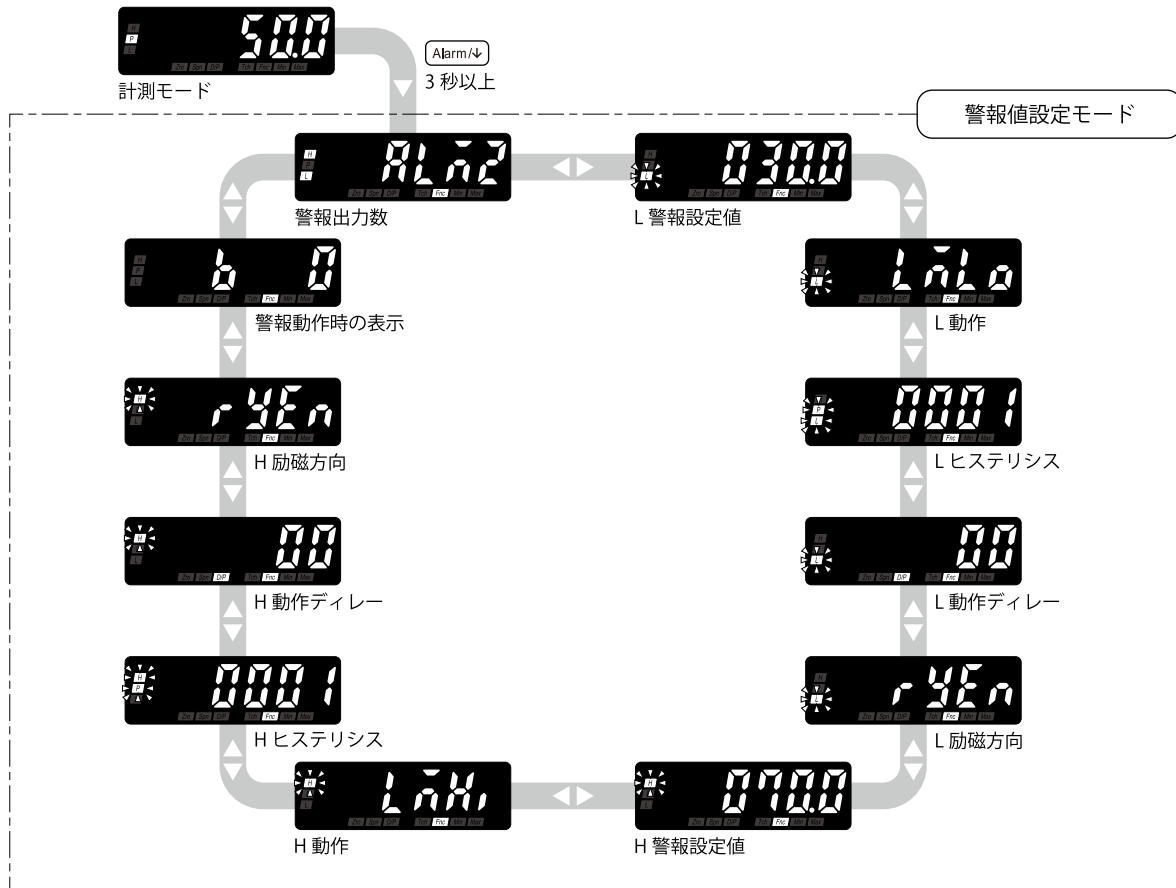


MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。図は初期値の場合です。
- 各パラメータから計測モードに戻るには **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3 秒以上) します。

(2) 警報値設定モード内の移動

警報値設定モードに移行後、**Alarm/↓** で時計回り、**Scale/↑** で反時計回りにパラメータ間を移動します。



MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。図は初期値の場合です。
- 「警報出力数」で「警報なし」を選択したときは、「警報出力数」以外は表示されません。
- 各パラメータから計測モードに戻るには **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3 秒以上) します。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

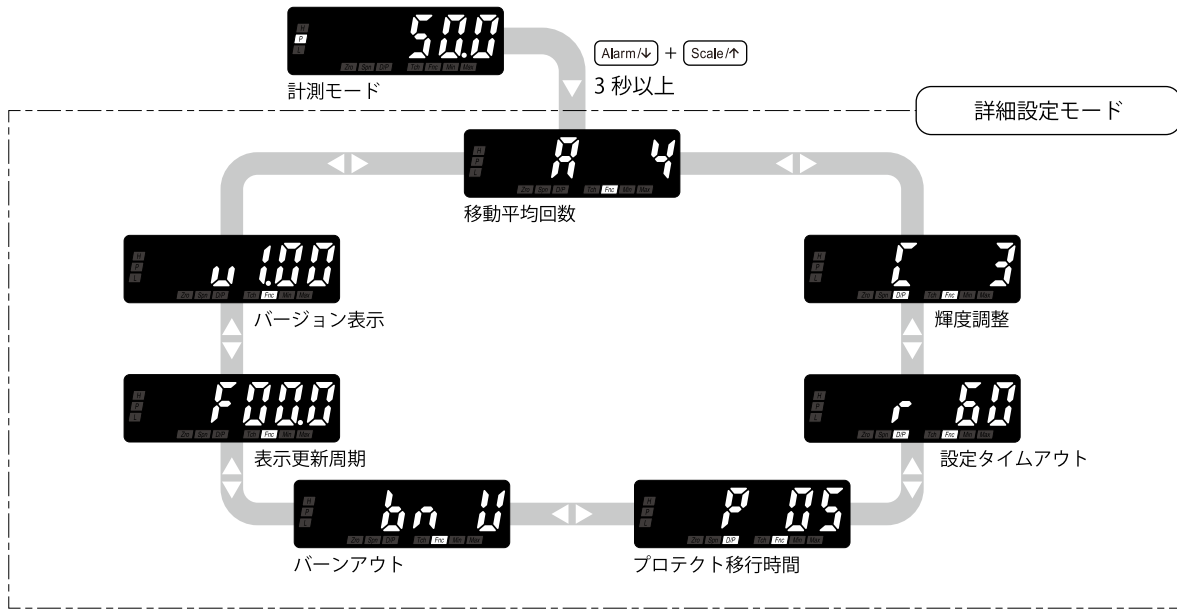
困ったときには

アフターサービス

付録

(3) 詳細設定モード内の移動

詳細設定モードに移行後、**Alarm/↓** で時計回り、**Scale/↑** で反時計回りにパラメータ間を移動します。

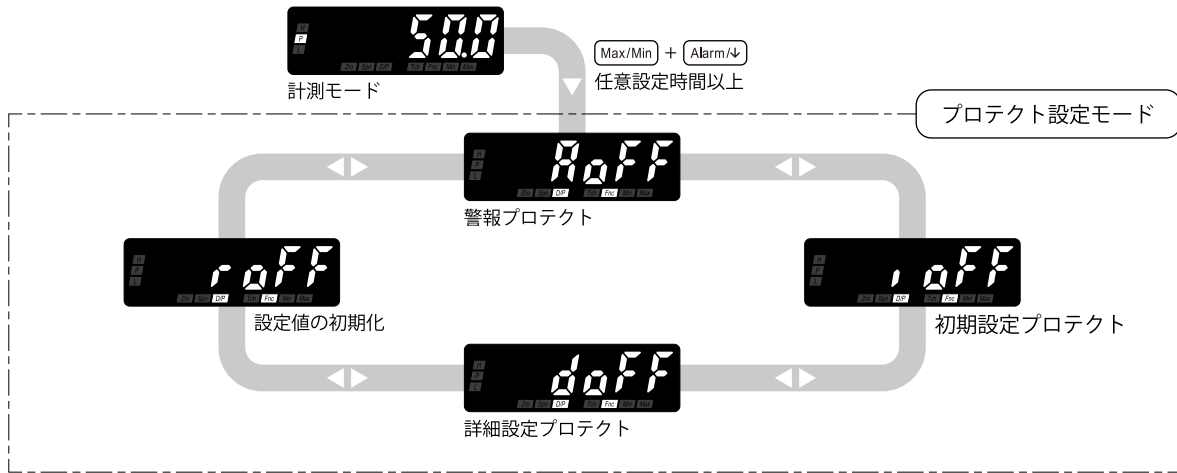


MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。図は初期値の場合です。
- 各パラメータから計測モードに戻るには **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3 秒以上) します。

(4) プロテクト設定モード内の移動

プロテクト設定モードに移行後、**Alarm/↓** で時計回り、**Scale/↑** で反時計回りにパラメータ間を移動します。



MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。図は初期値の場合です。
- 各パラメータから計測モードに戻るには **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押し (3 秒以上) します。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

警報出力を設定する

あらかじめ設定された警報設定値と表示値を比較した結果により、警報出力（フォトMOSリレー）ができます。警報出力条件として、各種パラメータ（表1、2）を設定できます。また、それぞれのパラメータを使った警報動作例を図1～5で説明しています。

■表1：警報出力のパラメータ

パラメータ	パラメータの意味
警報出力数	2点警報、警報なしより選択できます。
警報設定値	表示値に対して警報動作のしきい値を-9999～9999の範囲で設定できます。
動作	<ul style="list-style-type: none"> 警報動作を下限警報、上限警報より選択できます。 L動作を下限警報、H動作を上限警報に設定したり（図1）、L、H動作すべてを下限警報または上限警報に設定することもできます（図2）。 L、H警報の、いずれも動作していない場合は、[P]ステータスランプが点灯します。
ヒステリシス	<ul style="list-style-type: none"> 警報出力から解除までに一定の幅を設け、いったん警報出力すると一定の幅以上表示値の変化がなければ解除されないようにできます。これにより、表示値が警報動作のしきい値付近でふらついても、警報出力のチャタリングを防ぎます。（図3）。 ヒステリシスは、警報動作が下限警報の場合は表示値が増加する方向に働き、上限警報の場合は表示値が減少する方向に働きます。
動作ディレー	表示値が、警報動作のしきい値に達してから設定した時間その状態を継続すると警報出力します。外乱などの突変で警報出力しないようにできます（図4）。
励磁方向	警報出力の論理を正転論理の励磁と反転論理の非励磁より選択できます（図5）。
警報動作時の表示	警報動作時のメインディスプレイの表示点滅周期を5段階（表2）より選択できます。

■表2：パラメータの設定値

パラメータ	設定値	設定値の意味	初期値
警報出力数	[RLn2]	2点警報	[RLn2]
	[RLn0]	警報なし	
警報設定値	[-9999]～[9999]	-9999～9999	L警報設定値： [0300] H警報設定値： [0700]
動作	[LnLo]	下限警報	L動作： [LnLo]
	[LnHi]	上限警報	H動作： [LnHi]
ヒステリシス	[0000]～[9999]	0000～9999	[0000]
動作ディレー	[00]～[99]	0～99秒	[00]
励磁方向	[rYEn]	励磁（正転論理）	[rYEn]
	[rYdn]	非励磁（反転論理）	
警報動作時の表示	[b 0]	表示点滅なし	[b 0]
	[b 1]	表示点滅 約1.0秒周期	
	[b 2]	表示点滅 約0.5秒周期	
	[b 3]	表示点滅 約0.2秒周期	
	[b 4]	表示点滅 約0.1秒周期	

図 1：警報出力の動作例

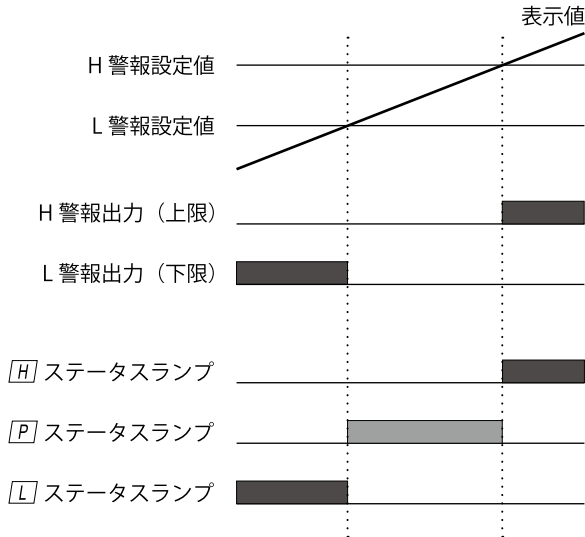
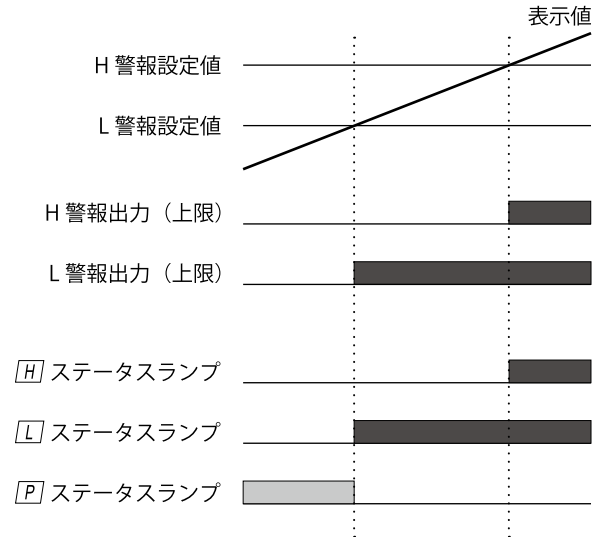


図 2：警報出力全て上限警報の動作例



各警報出力に対し下限警報または上限警報を自由に設定できますが、警報判定ステータスランプは各警報出力に対して、H 固定となっています。そのため、たとえば、L 警報出力の動作を上限警報に設定した場合でも警報時は L ステータスランプが点灯します。

図 3：ヒステリシスの動作例

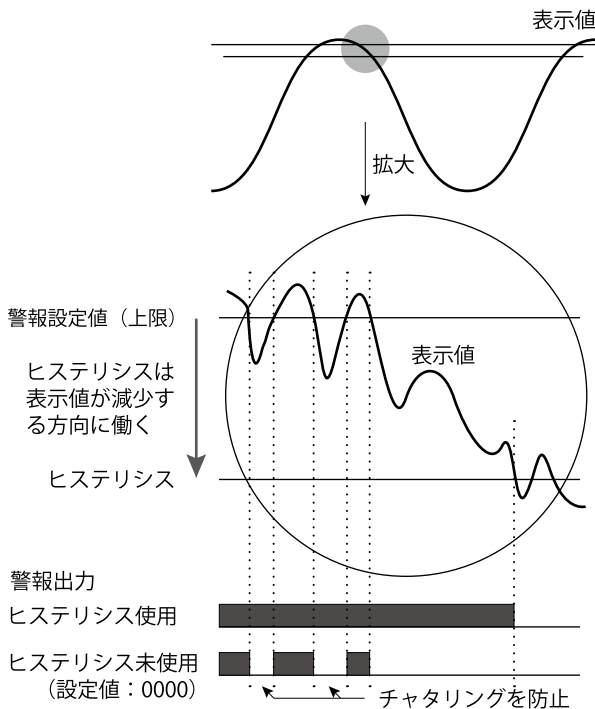
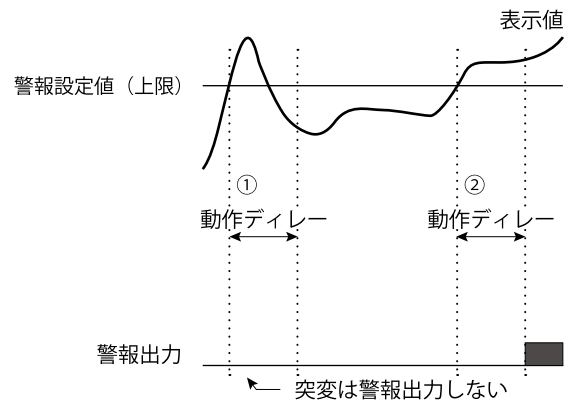
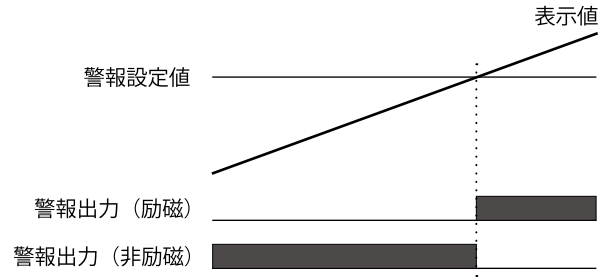


図 4：動作ディレーの動作例



- ①表示値がいったん警報範囲に入っても動作ディレー設定値に達する前に範囲外に出たため、警報出力しません。
- ②表示値が警報範囲に入って動作ディレー設定値以上の時間継続しているため、警報出力します。

図 5：励磁方向の動作例



たとえば、しきい値に達したときに運転を停止 (OFF) したい場合、出力論理を反転させる「非励磁」に設定します。

重要!

- Err 表示中の警報出力は、 Err と Min ステータスランプ点滅の場合は全ての下限警報が出力し、 Err と Max ステータスランプ点滅の場合は全ての上限警報が出力します。
- Err 表示中の警報出力は、「バーンアウト上方」に設定の場合は全ての上限警報が出力し、「バーンアウト下方」に設定の場合は全ての下限警報が出力します。
- 温度単位と小数点位置を変更すると、警報設定値は Err に変わります。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

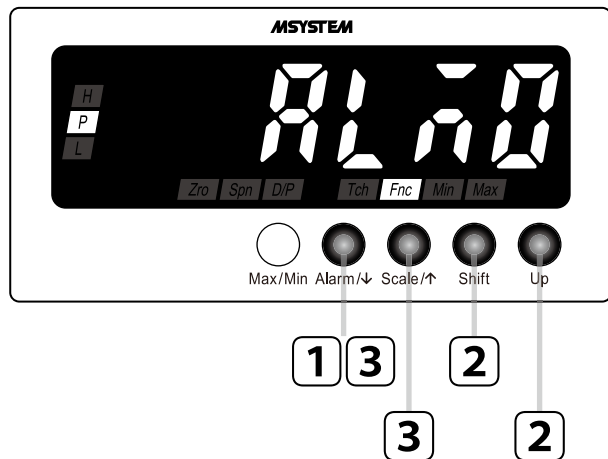
アフターサービス

付録

警報出力数を変更する

警報出力の出力点数を「警報なし」**ALn0** または「2点警報」**ALn2** より選択できます。

操作手順

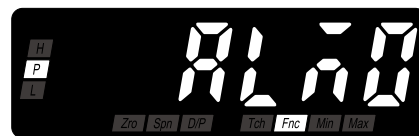


MEMO

- ここでは、**ALn0** から **ALn2** に変更する手順を例に説明します。
- **ALn2** から **ALn0** に変更する場合は、読み替えて操作してください。

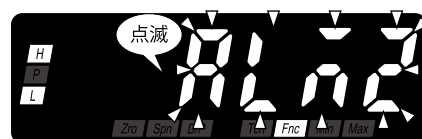
1 **Alarm/↓** を長押しして警報値設定モードに移行する (3秒以上)

警報出力数が表示されます。
P **Fnc** ステータスランプが点灯します。



2 **Shift** および **Up** で **ALn2** を選択する

H **L** ステータスランプ点灯に切替わります。



3

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して警報出力数を登録する

警報出力数が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、L 警報設定値が表示されます。設定により [9999] ~ [9999] の範囲で表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、警報動作時の表示が表示されます。設定により [b 0] [b 1] [b 2] [b 3] [b 4] のいずれかが表示されます。
- 「警報なし」を選択したときは、他のパラメータに移動できません。

4

■ 次のパラメータを設定するときは …

47 ページの「警報設定値を設定する」の手順 2 から操作する

■ 終了するときは …

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

警報設定値を設定する

警報設定値は、測定可能範囲内で任意に設定できます。

測定可能範囲の最小値または最大値を警報設定値に設定することで、 \boxed{bErr} および $\boxed{5Err}$ のような異常の場合、警報を出力することができます。

温度単位や小数点位置を変更した場合、警報設定値は $\boxed{\dots\dots}$ に変わります。

警報設定値の初期値

パラメータ	初期値
L 設定値	$\boxed{0300}$
H 設定値	$\boxed{0700}$

警報設定値設定可能範囲一覧

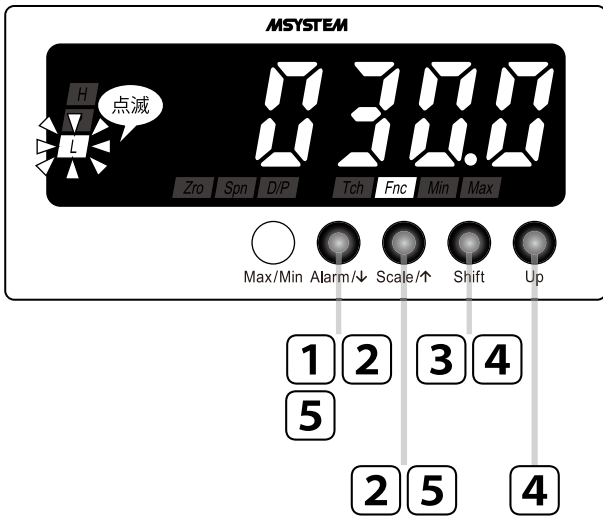
●温度単位：℃

入力信号	測温抵抗体	測定可能範囲	精度保証範囲
1	JPt100 (JIS'89)	-230 ~ +530	-200 ~ +500
3	Pt100 (JIS'89)	-230 ~ +680	-200 ~ +650
4	Pt100 (JIS'97、IEC)	-230 ~ +880	-200 ~ +850
5	Pt50 Ω (JIS'81)	-230 ~ +679	-200 ~ +649
7	Pt1000	-230 ~ +880	-200 ~ +850

●温度単位：°F

入力信号	測温抵抗体	測定可能範囲	精度保証範囲
1	JPt100 (JIS'89)	-382 ~ +986	-328 ~ +932
3	Pt100 (JIS'89)	-382 ~ +1256	-328 ~ +1202
4	Pt100 (JIS'97、IEC)	-382 ~ +1616	-328 ~ +1562
5	Pt50 Ω (JIS'81)	-382 ~ +1256	-328 ~ +1202
7	Pt1000	-382 ~ +1616	-328 ~ +1562

操作手順



MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

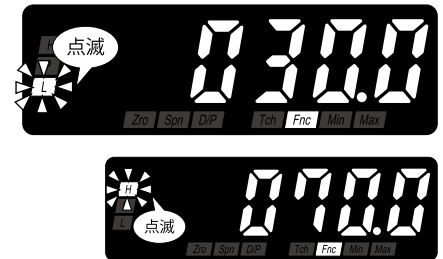
1 Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する (3 秒以上)

警報出力数が表示されます。
 [H] [L] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 警報設定値に移動する

L (H) 警報設定値を表示します。
 [L] ([H]) ステータスランプが点滅し、[Fnc] ステータスランプが点灯します。



●H警報設定値の場合

MEMO

設定により [9999] ~ [9999] の範囲で表示されます。

3 Shift を押して L (H) 警報設定値を変更可能にする

5 桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

4

Shift および Up で L (H) 警報設定値を設定する

[-9999] ~ [9999] の範囲で設定できます。

重要!

警報出力を使わない場合、[- - - -] に設定してください。警報出力を無効にできます。

MEMO

「温度単位」で「°F」または「小数点位置」で「小数点なし」を選択したときは、小数点なしで設定します。

5

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 警報設定値を登録する

L (H) 警報設定値が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、L (H) 動作が表示されます。設定により [L n L n] または [H n H n] が表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、警報出力数の [R L n 2] (または L 励磁方向の [r Y L n] または [r Y H n]) が表示されます。

6

■続けて他の警報設定値を設定するときは…

手順 2 から繰り返し操作する

■次のパラメータを設定するときは…

49 ページの「警報動作 (下限・上限) を変更する」の手順 2 から操作する

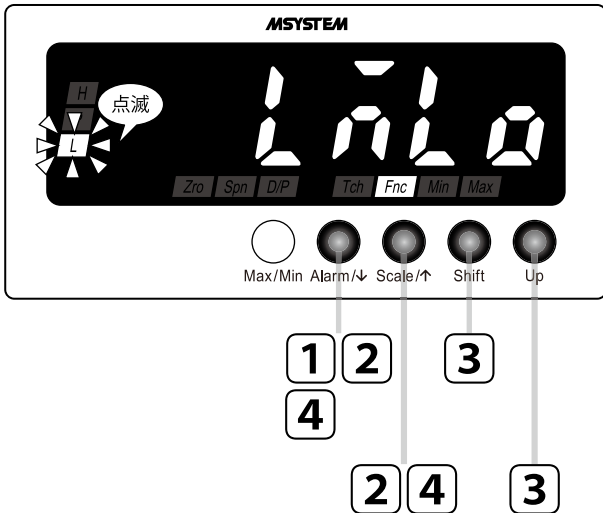
■終了するときは…

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

警報動作(下限・上限)を変更する

警報出力の警報動作を「下限警報 [L]」および「上限警報 [H]」より選択できます。L動作を下限警報、H動作を上限警報に設定したり、L、H動作すべてを下限警報または上限警報に設定することもできます。工場出荷時設定(初期値)は、L動作が「下限警報」、H動作が「上限警報」です。

操作手順



MEMO

- ここでは、[L]から[H]に変更する手順を例に説明します。
- [H]から[L]に変更する場合は、読み替えて操作してください。

1 Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する (3秒以上)

警報出力数が表示されます。
[H] [L] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押してL (H) 動作に移動する

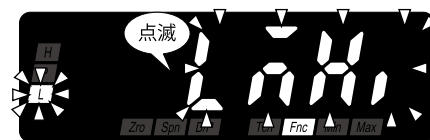
[L] を表示します。
[L] ([H]) ステータスランプが点滅し、[Fnc] ステータスランプが点灯します。



■ H動作の場合

3

Shift および Up で **L(H)** を選択する



4

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 動作を登録する

L (H) 動作が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、L (H) ヒステリシスが表示されます。設定により **0000** ~ **9999** の範囲で表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、L (H) 警報設定値が表示されます。設定により **0000** ~ **9999** の範囲で表示されます。

5

■続けて他の動作を設定するときは…

手順 2 から繰り返し操作する

■次のパラメータを設定するときは…

51 ページの「警報出力のヒステリシスを設定する」の手順 2 から操作する

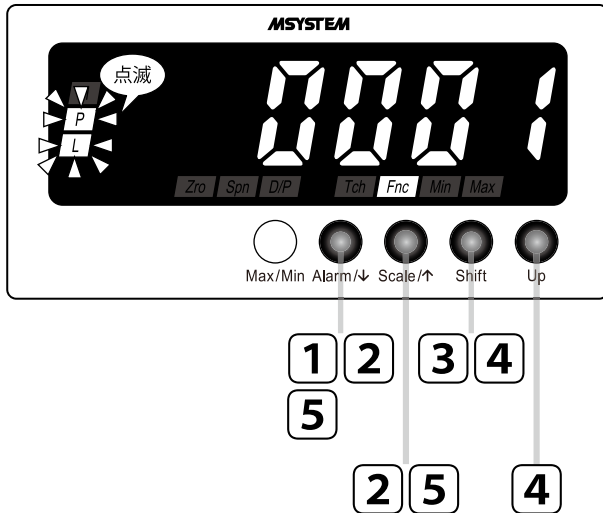
■終了するときは…

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

警報出力のヒステリシスを設定する

警報出力から解除までに一定の幅を設け、いったん警報出力すると一定の幅以上表示値の変化がなければ解除されないようにできます。これにより、表示値が警報動作のしきい値付近でふらついても警報出力のチャタリングを防ぎます。この一定の幅をヒステリシスといい、0000～9999の範囲で設定できます。工場出荷時設定（初期値）は「0001」です。

操作手順



MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1 Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する（3秒以上）

警報出力数が表示されます。
 [H] [L] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) ヒステリシスに移動する

L (H) ヒステリシスを表示します。
 [L] ([H]) [P] ステータスランプが点滅し、[Fnc] ステータスランプが点灯します。



■ Hヒステリシスの場合

MEMO

設定により [0000]～[9999]の範囲で表示されます。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

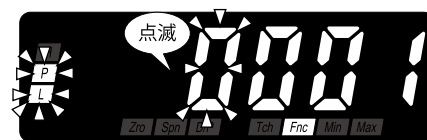
困ったときには

アフターサービス

付録

3 **Shift** を押して L (H) ヒステリシスを変更可能にする

4桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Shift** および **Up** で L (H) ヒステリシスを設定する

0000 ~ 9999 の範囲で設定できます。



警報設定値に対して設定しますが、小数点は表示されません。

5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して L (H) ヒステリシスを登録する

L (H) ヒステリシスが登録され、次のパラメータが表示されます。



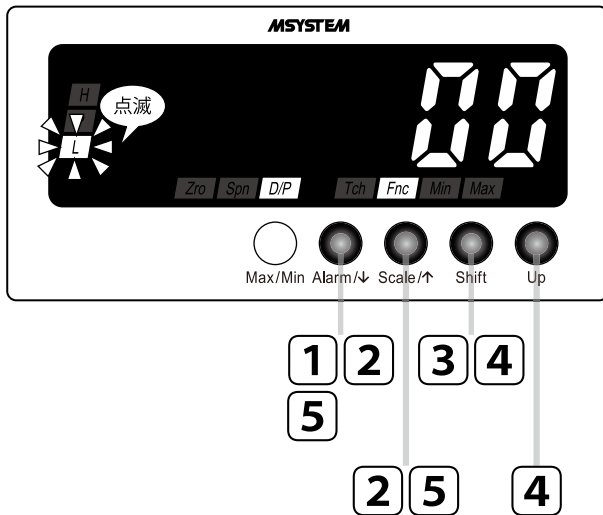
- **Alarm/↓** を押したときは、L (H) 動作ディレーが表示されます。設定により 00 ~ 99 の範囲で表示されます。
- **Scale/↑** を押したときは、L (H) 動作が表示されます。設定により L₁L₀ または L₁H₀ が表示されます。

6 ■続けて他のヒステリシスを設定するときは…
手順 2 から繰り返し操作する
 ■次のパラメータを設定するときは…
53 ページの「警報出力の動作ディレーを設定する」の手順 2 から操作する
 ■終了するときは…
Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

警報出力の動作ディレーを設定する

表示値が、警報動作のしきい値に達してから設定した時間その状態を継続すると警報出力します。外乱などの突変で警報出力しないようにできます。この時間を動作ディレーといい、0～99秒の範囲で設定できます。工場出荷時設定（初期値）は「0秒」です。

操作手順



MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

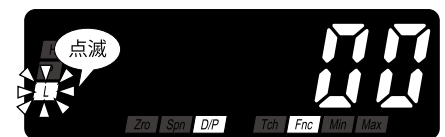
1 Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する（3秒以上）

警報出力数が表示されます。
 [H] [L] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 動作ディレーに移動する

L (H) 動作ディレーを表示します。
 [L] ([H]) ステータスランプが点滅し、[D/P] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



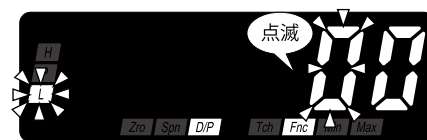
■ H動作ディレーの場合

MEMO

設定により [] [] ～ [] [] の範囲で表示されます。

3 **Shift** を押して L (H) 動作ディレーを変更可能にする

2桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Shift** および **Up** で L (H) 動作ディレーを設定する

00 ~ **99** の範囲で設定できます。

5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して L (H) 動作ディレーを登録する

L (H) 動作ディレーが登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **Alarm/↓** を押したときは、L (H) 励磁方向が表示されます。設定により **Exc** または **Non** が表示されます。
- **Scale/↑** を押したときは、L (H) ヒステリシスが表示されます。設定により **0000** ~ **9999** の範囲で表示されます。

6 ■続けて他の動作ディレーを設定するときは…
手順 2 から繰り返し操作する

■次のパラメータを設定するときは…

55 ページの「警報出力の論理 (励磁・非励磁) を変更する」の手順 2 から操作する

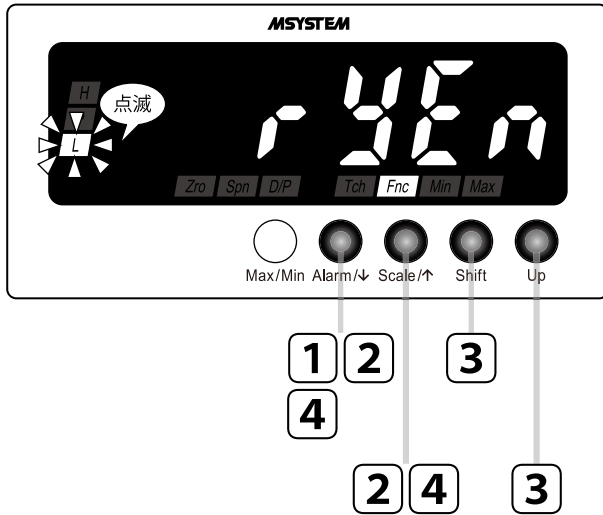
■終了するときは…

Alarm/↓ または **Scale/↑** を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

警報出力の論理(励磁・非励磁)を変更する

警報出力の出力論理を選択できます。このパラメータを励磁方向といい、「励磁」`rYEn` または「非励磁」`rYdn` より選択できます。非励磁を選択した場合、警報出力の論理を反転します。工場出荷時設定(初期値)は「励磁」です。

操作手順



MEMO

- ここでは、`rYEn` から `rYdn` に変更する手順を例に説明します。
- `rYdn` から `rYEn` に変更する場合は、読み替えて操作してください。

1 Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する (3 秒以上)

警報出力数が表示されます。
`[H]` `[L]` `[Fnc]` ステータスランプが点灯します。



2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 励磁方向に移動する

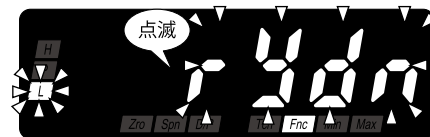
`rYEn` を表示します。
`[L]` (`[H]`) ステータスランプが点滅し、`[Fnc]` ステータスランプが点灯します。



■ H励磁方向の場合

3

Shift および Up で **rYdn** を選択する



4

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して L (H) 励磁方向を登録する

L (H) 励磁方向が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、H 警報設定値 (または警報動作時の表示) が表示されます。設定により [0000] ~ [9999] の範囲 (または [b 0] [b 1] [b 2] [b 3] [b 4] のいずれか) で表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、L (H) 動作ディレーが表示されます。設定により [00] ~ [99] の範囲で表示されます。

5

■続けて他の励磁方向を設定するときは・・・

手順 2 から繰り返し操作する

■次のパラメータを設定するときは・・・

58 ページの「警報動作時の表示点滅周期を変更する」の手順 2 から操作する

■終了するときは・・・

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

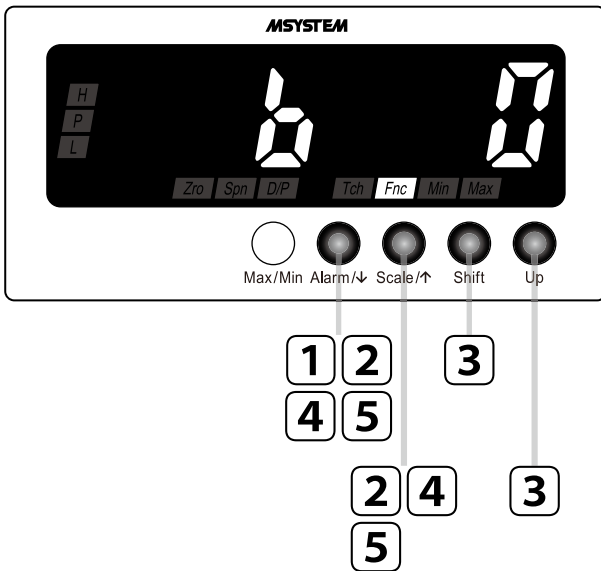
警報動作時の表示点滅周期を変更する

警報動作時のメインディスプレイの表示点滅周期を変えることができます。このパラメータを警報動作時の表示といい、下表より選択できます。

■警報動作時の表示の設定値

設定値	設定値の意味	初期値
b 0	表示点滅なし	b 0
b 1	表示点滅 約 1.0 秒周期	
b 2	表示点滅 約 0.5 秒周期	
b 3	表示点滅 約 0.2 秒周期	
b 4	表示点滅 約 0.1 秒周期	

操作手順



MEMO

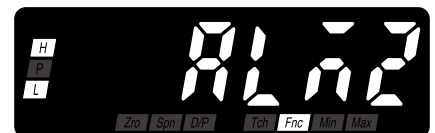
操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1

Alarm/↓ を長押しして警報値設定モードに移行する (3 秒以上)

警報出力数が表示されます。

[H] **[L]** **[Fnc]** ステータスランプが点灯します。



はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

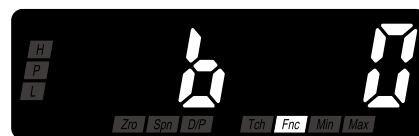
困ったときには

アフターサービス

付録

2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して警報動作時の表示に移動する

警報動作時の表示を表示します。
 [Fnc] ステータスランプが点灯します。

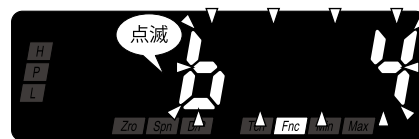


MEMO

- $b \cdot 0$ の最初の B は Brinking を意味します。
- 設定により $b \cdot 0$ 、 $b \cdot 1$ 、 $b \cdot 2$ 、 $b \cdot 3$ 、 $b \cdot 4$ のいずれかが表示されます。

3 Shift および Up で警報動作時の表示を選択する

$b \cdot 0$ 、 $b \cdot 1$ 、 $b \cdot 2$ 、 $b \cdot 3$ 、 $b \cdot 4$ より選択できます。



4 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して警報動作時の表示を登録する

警報動作時の表示が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- [Alarm/↓] を押したときは、警報出力数の R_{1n} が表示されます。
- [Scale/↑] を押したときは、H 励磁方向が表示されます。設定により r_{ydn} または r_{ydn} が表示されます。

5 Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

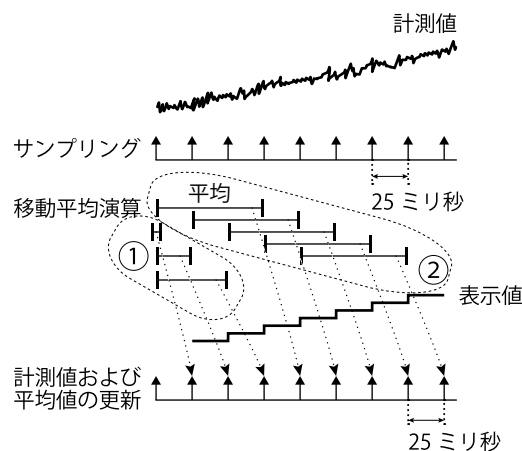
入力の平均化処理をおこなう

計測値に移動平均演算を行うことができます。移動平均演算の移動平均回数は、下表より選択できます。移動平均演算では、移動平均回数分だけサンプリングしたサンプル値の平均値を求めます。次に、最も古いサンプル値を捨てて、そこに新しくサンプリングしたサンプル値を追加して平均値を求めます。この演算を下図のように繰り返し行います。たとえば、移動平均回数 **4** を選択した場合は、移動平均 4 回（100 ミリ秒間）の平均値の演算を繰り返し行います。移動平均演算を行うことで、入力信号にノイズの周期的なばらつきが含まれている場合、ばらつきを除去し表示のちらつきを抑えて見やすくします。

■移動平均回数の設定値

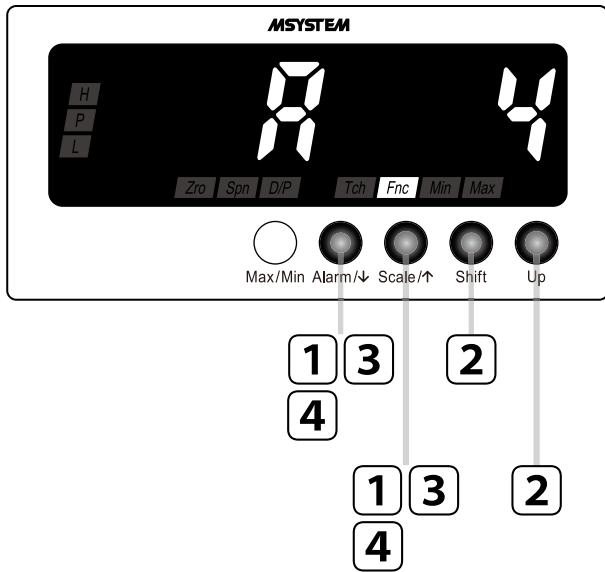
設定値	設定値の意味	初期値
OFF	移動平均処理なし	4
2	移動平均 2 回（50 ミリ秒間）	
4	移動平均 4 回（100 ミリ秒間）	
8	移動平均 8 回（200 ミリ秒間）	
16	移動平均 16 回（400 ミリ秒間）	
32	移動平均 32 回（800 ミリ秒間）	
64	移動平均 64 回（1.6 秒間）	

■移動平均演算の移動平均 4 回の動作例



- ①電源投入直後や移動平均回数登録直後から移動平均演算を開始します。移動平均回数が設定値に達するまでは 25 ミリ秒ごとに、全サンプルの平均を演算します。
- ②移動平均回数が設定値に到達後は、最も古いサンプル値を捨てて、そこに新しくサンプリングしたサンプル値を追加して平均値を求めます。この演算を繰り返し行います。

操作手順

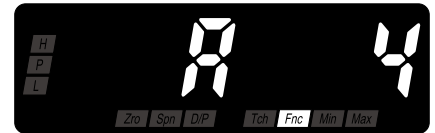


MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1 Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3秒以上)

移動平均回数が表示されます。
[Fnc] ステータスランプが点灯します。

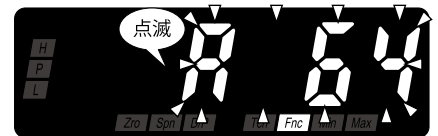


MEMO

設定により R 0FF R 2 R 4 R 8 R 16 R 32 R 64 のいずれかが表示されます。

2 Shift および Up で移動平均回数を選択する

R 0FF R 2 R 4 R 8 R 16 R 32 R 64 より選択できます。



MEMO

R 64 の最初の A は Moving Average を意味します。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

3

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して移動平均回数を登録する

移動平均回数が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、輝度調整が表示されます。設定により [1] [2] [3] [4] [5] のいずれかが表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、バージョン表示が表示されます。

4

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

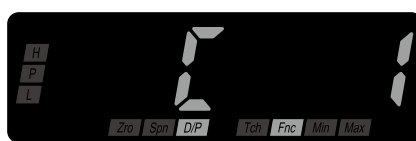
表示の輝度を調整する

表示部の明るさを変えることができます(下図)。表示部の明るさは下表より選択できます。

■輝度調整の設定値

設定値	設定値の意味	初期値
[1]	輝度 1 (暗い)	[3]
[2]	輝度 2	
[3]	輝度 3 (中間)	
[4]	輝度 4	
[5]	輝度 5 (明るい)	

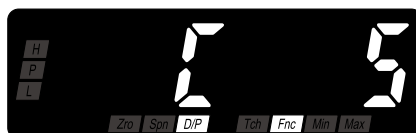
■輝度調整の調整イメージ



▼ 明るくなる 暗くなる ▲



▼ 明るくなる 暗くなる ▲



はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

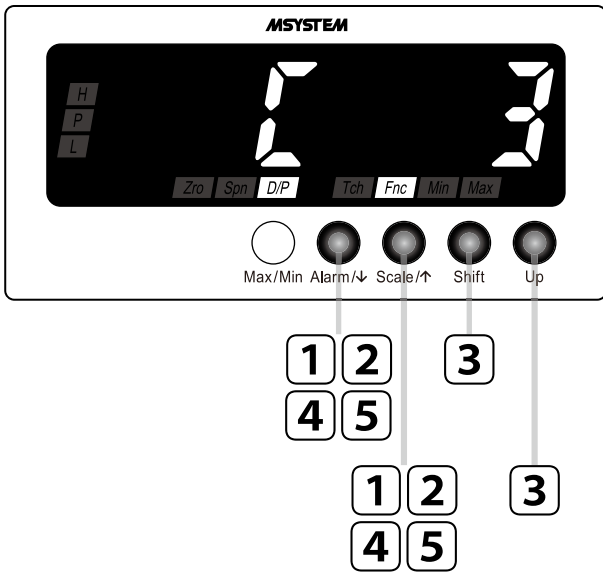
保守

困ったときには

アフターサービス

付録

操作手順



MEMO

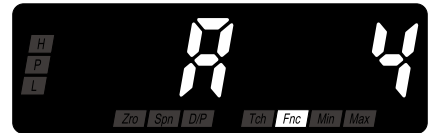
操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1

Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3 秒以上)

移動平均回数が表示されます。

[Fnc] ステータスランプが点灯します。



MEMO

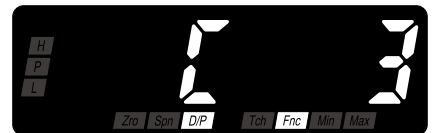
設定により R_{OFF} 、 R_2 、 R_4 、 R_8 、 R_{16} 、 R_{32} 、 R_{64} のいずれかが表示されます。

2

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して輝度調整に移動する

輝度調整を表示します。

[D/P] [Fnc] ステータスランプが点灯します。



MEMO

- [03] の最初の C は Contrast を意味します。
- 設定により C_1 、 C_2 、 C_3 、 C_4 、 C_5 のいずれかが表示されます。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

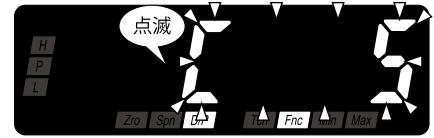
アフターサービス

付録

3

Shift および Up で輝度調整を選択する

1 2 3 4 5 より選択できます。



4

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して輝度調整を登録する

輝度調整が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、設定タイムアウトが表示されます。設定により $\square\square.\square\square$ ~ $\square\square.\square\square$ の範囲で表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、移動平均回数が表示されます。設定により $\square\square.\square\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ 、 $\square\square.\square$ のいずれかが表示されます。

5

Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

通常表示に自動復帰させる

各設定モードで、あらかじめ設定された待ち時間の間ボタン操作を行わなかった場合、自動的に計測モードに戻ります。この待ち時間を設定タイムアウトといい、1～99秒の範囲で設定できます（表1）。自動で計測モードに戻らないようにするには「00」に設定します。また、モードによっては自動で計測モードに戻らない場合もあります（表2）。

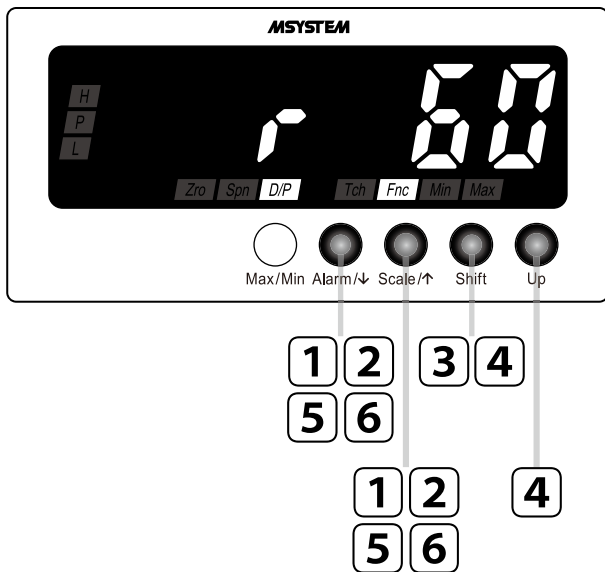
■表1：設定タイムアウトの設定値

設定値	設定値の意味	初期値
[r 00]	設定タイムアウト無効	[r 60]
[r 01]～[r 99]	1～99秒	

■表2：各モードでの設定タイムアウトの対応

モード	計測モードの状態	設定タイムアウトの対応
計測	警報設定値の確認中	する
	最大値・最小値の表示中	しない
初期設定		する
警報値設定		する
詳細設定		する
プロテクト設定		する

操作手順



MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1

[Alarm/↓] と [Scale/↑] を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3 秒以上)

移動平均回数が表示されます。
[Fnc] ステータスランプが点灯します。



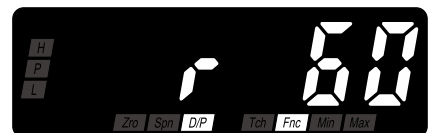
MEMO

設定により R_{OFF} 、 R_2 、 R_4 、 R_8 、 R_{16} 、 R_{32} 、 R_{64} のいずれかが表示されます。

2

[Alarm/↓] または [Scale/↑] を押して設定タイムアウトに移動する

設定タイムアウトを表示します。
[D/P] [Fnc] ステータスランプが点灯します。

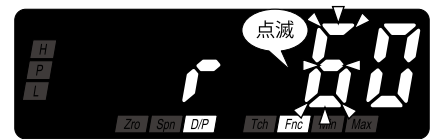


MEMO

- ・ R_{50} の最初の R は Automatic Return Time を意味します。
- ・ 設定により R_{00} ~ R_{99} の範囲で表示されます。

3 **Shift** を押して設定タイムアウトを変更可能にする

2桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Shift** および **Up** で設定タイムアウトを設定する

00 ~ **99** の範囲で設定できます。

5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して設定タイムアウトを登録する

設定タイムアウトが登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **Alarm/↓** を押したときは、プロテクト移行時間が表示されます。設定により **00** ~ **99** の範囲で表示されます。
- **Scale/↑** を押したときは、輝度調整が表示されます。設定により **0** ~ **5** のいずれかが表示されます。

6 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押しして計測モードに戻る (3秒以上)

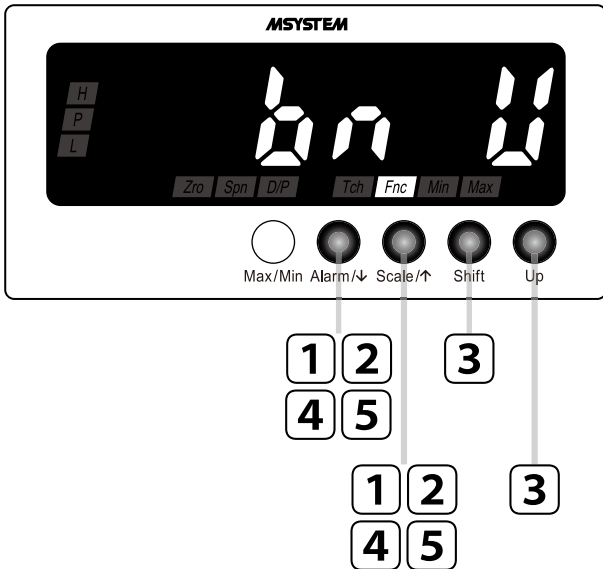
バーンアウトを設定する

入力が断線などの異常時に、上限警報または下限警報を出力して、設備・現場機器などを安全な方向にもっていくことをバーンアウトといいます。バーンアウトには、入力断線時に加熱を停止させる方向に働く「バーンアウト上方 $\overline{bn\ u}$ 」と、高温を維持する方向に働く「バーンアウト下方 $\overline{bn\ d}$ 」があります。バーンアウトを検出するとメインディスプレイは、 \overline{bErr} が表示されます。さらに「バーンアウト上方」の場合は全ての上限警報が出力されます。「バーンアウト下方」の場合は全ての下限警報が出力されます。工場出荷時設定（初期値）は「バーンアウト上方」です。

重要!

\overline{bErr} 表示中にバーンアウトの設定を変更しないでください。

操作手順



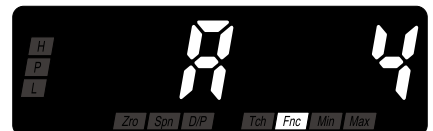
MEMO

- ここでは $\overline{bn\ u}$ から $\overline{bn\ d}$ に変更する手順を例に説明します。
- $\overline{bn\ d}$ から $\overline{bn\ u}$ に変更する場合は、読み替えて操作してください。

1

Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する（3秒以上）

移動平均回数が表示されます。
 \overline{Fnc} ステータスランプが点灯します。



MEMO

設定により $\overline{R0FF}$ $\overline{R 2}$ $\overline{R 4}$ $\overline{R 8}$ $\overline{R 16}$ $\overline{R 32}$ $\overline{R 64}$ のいずれかが表示されます。

2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押してバーンアウトに移動する

`bn U` を表示します。

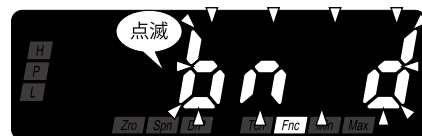
`Fnc` ステータスランプが点灯します。



MEMO

`bn U` の最初の BN は Burnout を意味します。

3 Shift および Up で `bn d` を選択する



4 Alarm/↓ または Scale/↑ を押してバーンアウトを登録する

バーンアウトが登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- `Alarm/↓` を押したときは、表示更新周期が表示されます。設定により `F000` ~ `F999` の範囲で表示されます。
- `Scale/↑` を押したときは、プロテクト移行時間が表示されます。設定により `P00` ~ `P99` の範囲で表示されます。

5 Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

表示の更新周期を変える

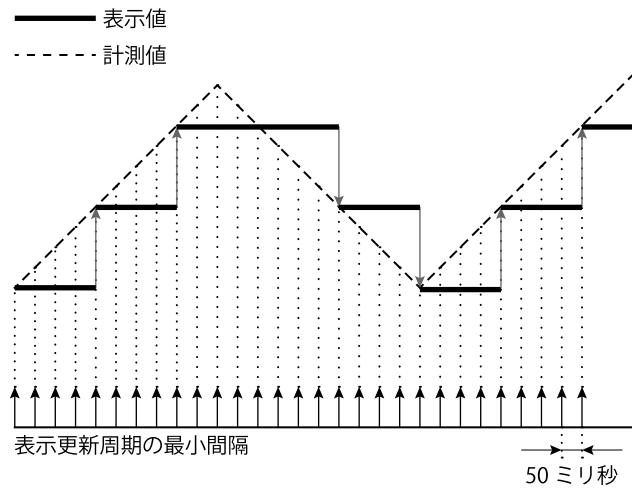
表示更新周期は、0.1 ～ 99.9 秒の範囲で設定できます。「00.0」に設定した場合、50 ミリ秒になります（下表）。表示更新周期を遅くすることで、入力信号が高速で変化する場合、表示のちらつきを抑えて見やすくします。

■表示更新周期の設定値

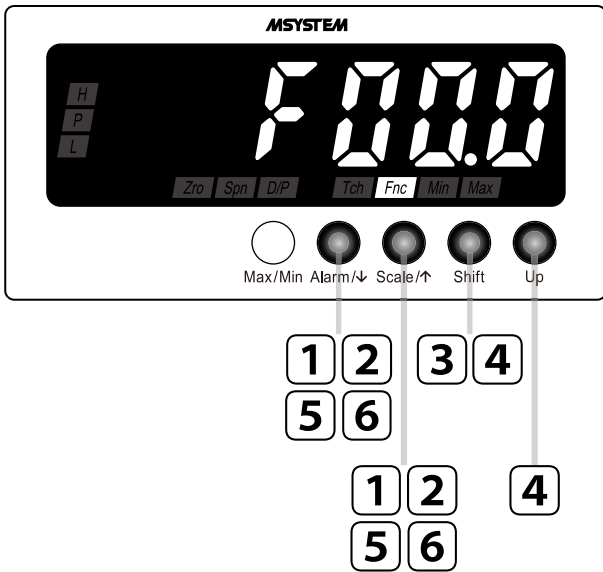
設定値	設定値の意味	初期値
<code>F000</code>	50 ミリ秒	<code>F000</code>
<code>F00.1</code> ～ <code>F99.9</code>	0.1 ～ 99.9 秒	

■表示更新周期のイメージ

表示更新周期 0.2 秒の場合



操作手順



MEMO

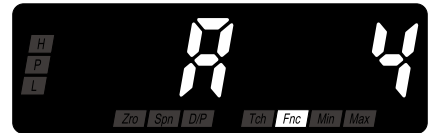
操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1

Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3 秒以上)

移動平均回数が表示されます。

[Fnc] ステータスランプが点灯します。



MEMO

設定により R_{OFF} 、 R_2 、 R_4 、 R_8 、 R_{16} 、 R_{32} 、 R_{64} のいずれかが表示されます。

2

Alarm/↓ または Scale/↑ を押して表示更新周期に移動する

表示更新周期を表示します。

[Fnc] ステータスランプが点灯します。



MEMO

- ・「F0000」の最初の F は Display Refreshing を意味します。
- ・設定により「F0000」～「F9999」の範囲で表示されます。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

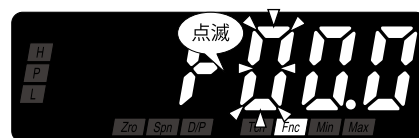
困ったときには

アフターサービス

付録

3 **Shift** を押して表示更新周期を変更可能にする

3桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Shift** および **Up** で表示更新周期を設定する

F000 ~ **F999** の範囲で設定できます。

5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して表示更新周期を登録する

表示更新周期が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **Alarm/↓** を押したときは、バージョン表示が表示されます。
- **Scale/↑** を押したときは、バーンアウトが表示されます。設定により **b n . d** または **b n . d** が表示されます。

6 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押しして計測モードに戻る (3秒以上)

便利な機能

警報設定値を確認する	74
最大値・最小値を保持する	75
ボタン操作を制限する	77
ボタン操作を制限する	78
プロテクト移行時間の設定	80

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

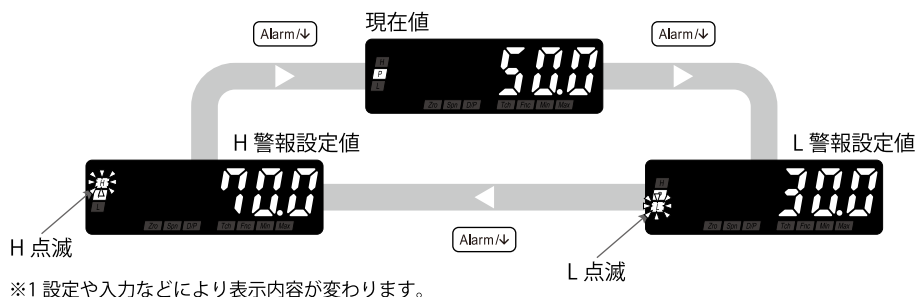
付録

警報設定値を確認する

計測モード中に、警報値設定モードで設定した警報設定値を確認することができます。計測モードで **Alarm/↓** を押すたびに、L → H の順番に警報設定値を表示し、最後に元の表示状態に戻ります。

■警報設定値の確認手順

計測モードで **Alarm/↓** を押すたびに、現在値→L 警報設定値→H 警報設定値→現在値の順に切替わります。



ご注意

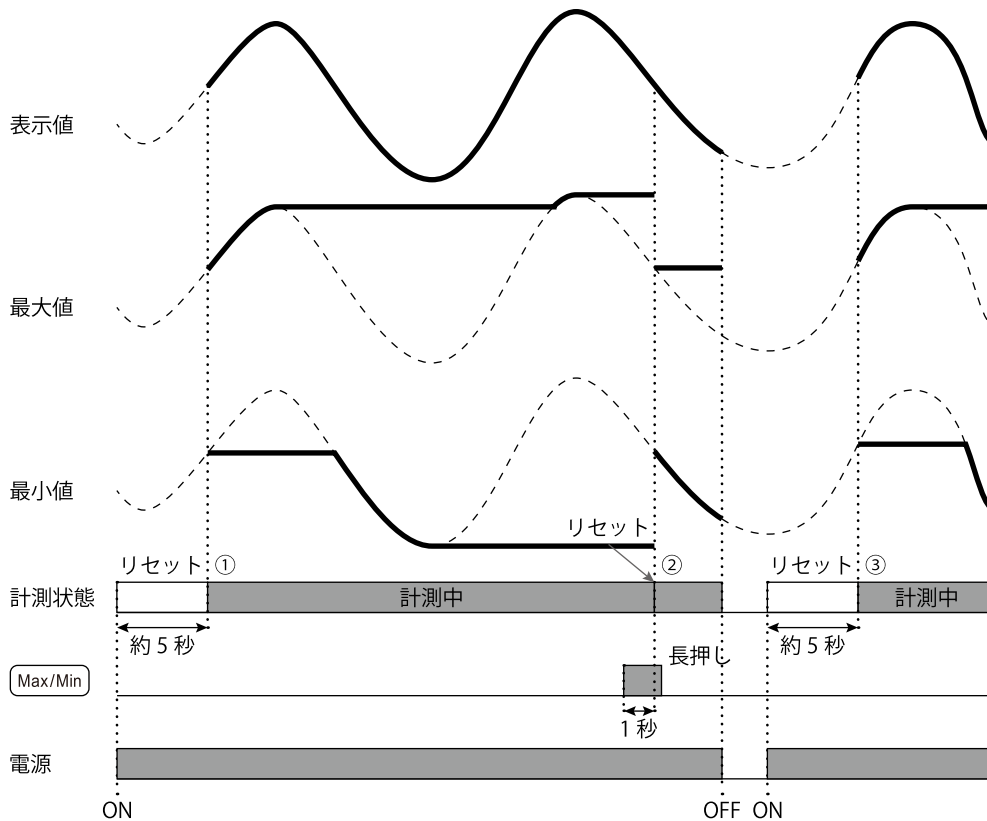
- ・「警報出力数」で「警報なし」を選択したときは、警報設定値の確認はできません。
- ・最大値・最小値の表示中も警報設定値の確認ができます。確認後は、確認操作を開始した時点の最大値または最小値表示に戻ります。
- ・**Err** および **hErr** 表示中は警報設定値の確認はできません。

最大値・最小値を保持する

計測モード中に、過去の最大値・最小値を確認することができます。計測モードで **Max/Min** を押すたびに、最大値→最小値の順番に表示し、最後に元の表示状態に戻ります。

■最大値・最小値について

計測中は最大値・最小値を常に更新しています。



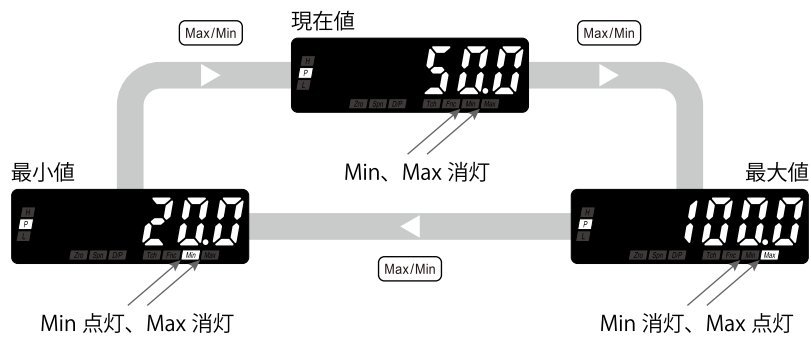
①電源投入 (ON) 後約 5 秒間、内部メモリがリセットされ、その後、最大値・最小値の計測を開始します。

② **Max/Min** 長押し (1 秒以上) で、最大値・最小値がリセットされ、その時点から新たに最大値・最小値の計測を開始します。

③電源を OFF し再び ON すると、約 5 秒間内部メモリがリセットされ、その後、最大値・最小値の計測を開始します。

■最大値・最小値の表示切替の操作手順

- 計測モードで **Max/Min** を押すたびに、現在値→最大値→最小値→現在値の順に切替わります。
- **Max/Min** を長押し (1 秒以上) すると、保持していた最大値・最小値がリセットされ、そこから最大値・最小値が更新表示されます。また、電源を切ると最大値・最小値はリセットされます。



※1 設定や入力などにより表示内容が変わります。

ご注意

- 警報設定値の確認中に最大値・最小値の表示操作を実施すると、最大値・最小値表示に切替わります。
- **SErr** および **bErr** 表示中は最大値・最小値の表示はできません。

ボタン操作を制限する

計測モードから各設定モードへの移行を制限することができます。この設定をすると、モードを移行するためのボタン長押しが無効になります。プロテクト設定モードで、設定モードごとに選択できます。

また、プロテクト設定モードに移行するためのボタン長押し時間を0～99秒の範囲より設定できます。

■ボタン操作制限の種類

ボタン操作制限は次の3種類です。

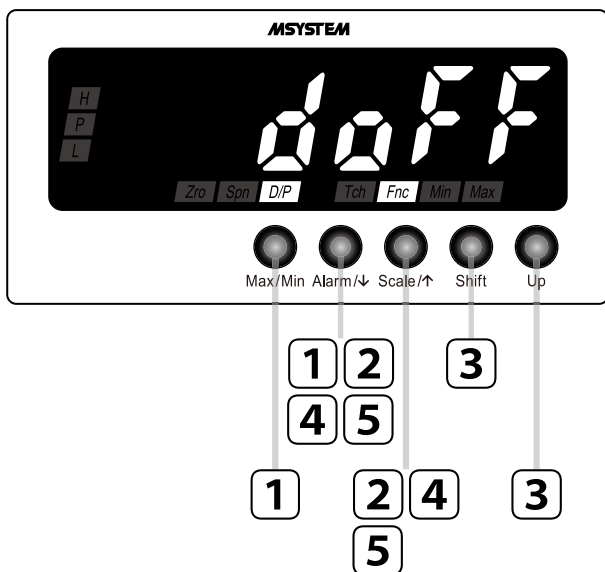
パラメータ	ステータスランプ	設定値	設定値の意味	初期値
警報プロテクト (Alarm Setting Lockout)	 		警報設定ができる	
			警報設定ができない	
初期設定プロテクト (Initial Setting Lockout)			初期設定ができる	
			初期設定ができない	
詳細設定プロテクト (Advanced Setting Lockout)			詳細設定ができる	
			詳細設定ができない	

■プロテクト移行時間の設定内容

プロテクト設定モードに移行するためのボタン長押し時間を0～99秒の範囲より設定できます。工場出荷時設定（初期値）は「5秒」です。

ボタン操作を制限する

操作手順



MEMO

- 操作手順として詳細設定プロテクトを例に説明しています。他のボタン操作制限も操作手順は同じです。`dOFF` `d.on`を読み替えて操作してください。
- 制限を解除するときの操作手順は、「ON」と「OFF」を読み替えて操作してください。

1 `Max/Min` と `Alarm/↓` を同時に長押ししてプロテクト設定モードに移行する (任意設定時間以上)

警報プロテクトが表示されます。
`D/P` `Fnc` ステータスランプが点灯します。

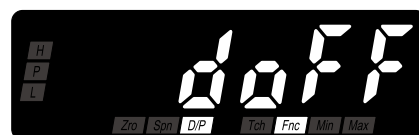


MEMO

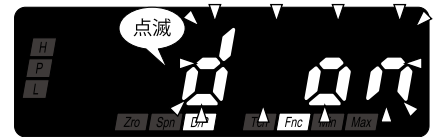
設定により `RaFF` または `R.on` が表示されます。

2 `Alarm/↓` または `Scale/↑` を押して詳細設定プロテクトに移動する

`dOFF` を表示します。
`D/P` `Fnc` ステータスランプが点灯します。



3 Shift および Up で d_{on} を選択する



4 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して詳細設定プロテクトを登録する

詳細設定プロテクトが登録され、次のパラメータが表示されます。

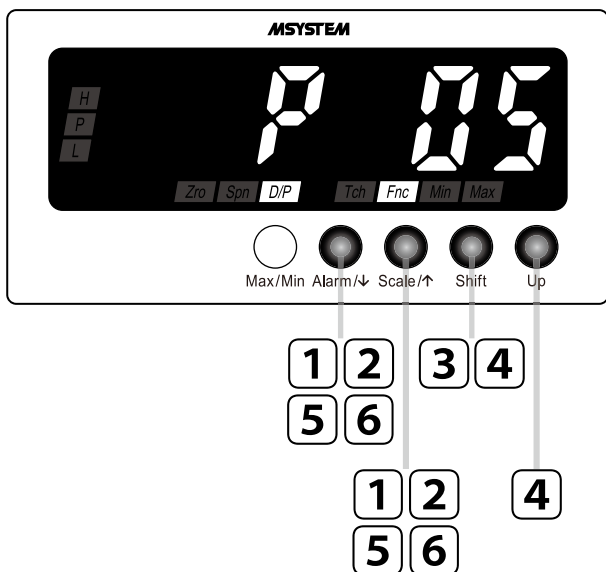
MEMO

- Alarm/↓ を押したときは、設定値の初期化が表示されます。
- Scale/↑ を押したときは、初期設定プロテクトが表示されます。
設定により d_{off} または d_{on} が表示されます。

5 Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3 秒以上)

プロテクト移行時間の設定

操作手順

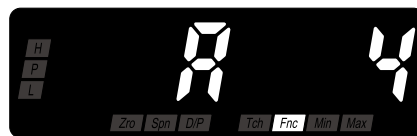


MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1 Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3秒以上)

移動平均回数が表示されます。
 [Fnc] ステータスランプが点灯します。

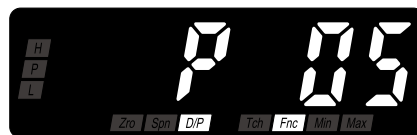


MEMO

設定により $\overline{R_{OFF}}$ 、 $\overline{R_2}$ 、 $\overline{R_4}$ 、 $\overline{R_8}$ 、 $\overline{R_{16}}$ 、 $\overline{R_{32}}$ 、 $\overline{R_{64}}$ のいずれかが表示されます。

2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押してプロテクト移行時間に移動する

プロテクト移行時間を表示します。
 [D/P] [Fnc] ステータスランプが点灯します。

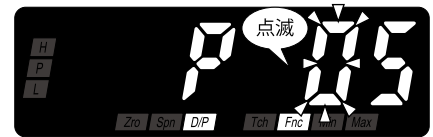


MEMO

- $\overline{P_{05}}$ の最初の P は Protect を意味します。
- 設定により $\overline{P_{00}}$ ~ $\overline{P_{99}}$ の範囲で表示されます。

3 **Shift** を押してプロテクト移行時間を変更可能にする。

2桁目が点滅し設定変更可能状態になります。



4 **Shift** および **Up** でプロテクト移行時間を設定する

P 00 ~ **P 99** の範囲で設定できます。

5 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押してプロテクト移行時間を登録する

プロテクト移行時間が登録され、次のパラメータが表示されます。

MEMO

- **Alarm/↓** を押したときは、バーンアウトが表示されます。設定により **bn 0** または **bn 1** が表示されます。
- **Scale/↑** を押したときは、設定タイムアウトが表示されます。設定により **r 00** ~ **r 99** の範囲で表示されます。

6 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押しして計測モードに戻る (3秒以上)

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

保守

ユーザ校正について	84
入力補正の方法	85
点検・清掃	88

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

ユーザ校正について

ユーザ校正には、お客様の計測器・基準器などを使用して行う「校正」があります。入力信号の校正（調整）は、「入力補正」を使って行います。

入力補正

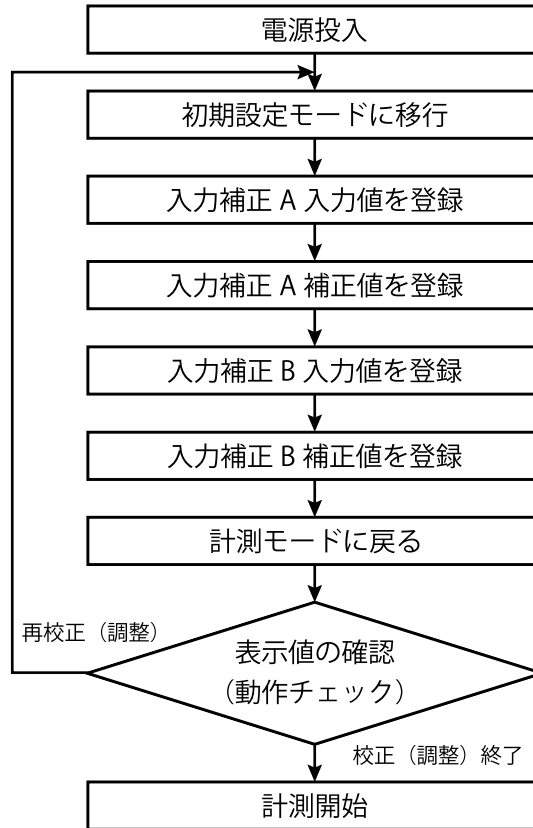
お客様で校正が必要な場合には、入力補正機能を使って入力信号の校正を行います。入力補正は任意の2点を設定します。設定した2点間を直線で結んだ傾きで、計測可能範囲の全区間を補正します。データを初期化すると、入力補正データは破棄され、工場出荷時の状態に戻りますのでご注意ください。

校正のための計測器などの設備はお客様でご用意ください。また、それぞれの機器の取扱については機器付属の取扱説明書をご覧ください。

入力補正の方法

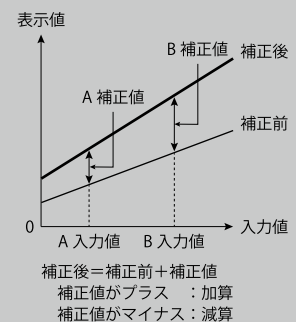
入力補正の流れ

入力信号の入力補正 (調整) は次のような流れで行います。

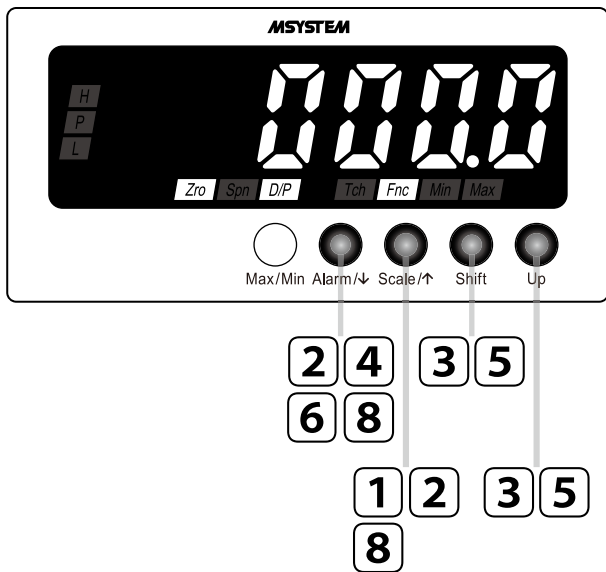


重要!

- 校正 (調整) で使用する計測器・設備・現場機器などは、それぞれ付属の取扱説明書に記載された時間以上ウォームアップを行い、安定した状態で本器の操作をしてください。
- 入力補正は 2 点補正になります。
- 入力補正 A 入力値と入力補正 B 入力値を同じ値に設定した場合は、入力補正は行いません。
- 「温度単位」および「小数点位置」を変更すると「入力補正 A 入力値・補正值」「入力補正 B 入力値・補正值」の設定値は初期化されますのでご注意ください。
- 入力補正の範囲は [0.0000] ~ [9.9999] です。



操作手順

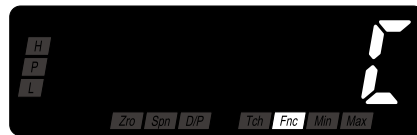


MEMO

操作手順で使用している図は表示例です。設定により表示内容は変わります。

1 **Scale/↑** を長押しして初期設定モードに移行する (3 秒以上)

温度単位が表示されます。
Fnc ステータスランプが点灯します。



2 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を押して入力補正 A 入力値に移動する

入力補正 A 入力値を表示します。
Zro **D/P** **Fnc** ステータスランプが点灯します。



3 **Shift** を押して、入力補正 A 入力値を変更可能にし、**Shift** および **Up** で設定する

5 桁目が点滅し設定変更可能状態になります。
 [9999] ~ [9999] の範囲で設定できます。



MEMO

「温度単位」で「°F」または「小数点位置」で「小数点なし」を選択したときは、小数点なしで設定します。

4 **Alarm/↓** を押して入力補正 A 入力値を登録すると同時に入力補正 A 補正值に移動する

入力補正 A 入力値が登録されます。
 入力補正 A 補正值を表示します。
Zro **Tch** **Fnc** ステータスランプが点灯します。



5 **Shift** を押して、入力補正 A 補正值を変更可能にし、**Shift** および **Up** で設定する

5桁目が点滅し設定変更可能状態になります。
-99999 ~ **99999** の範囲で設定できます。

※ 表示値より大きい値にする場合は「正の値」を、
 表示値より小さい値にする場合は「負の値」を設定してください。

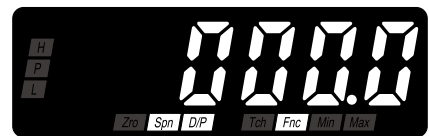


MEMO

「温度単位」で「°F」または「小数点位置」で「小数点なし」を選択したときは、小数点なしで設定します。

6 **Alarm/↓** を押して入力補正 A 補正值を登録すると同時に入力補正 B 入力値に移動する

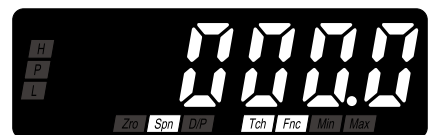
入力補正 A 補正值が登録されます。
 入力補正 B 入力値を表示します。
Spn **D/P** **Fnc** ステータスランプが点灯します。



7 入力補正 B 入力値・補正值を設定する

2～6の手順で入力補正 B 入力値・補正值を設定してください。

※ 入力補正 B 補正值の場合、**Spn** **Tch** **Fnc** ステータスランプが点灯します。



8 **Alarm/↓** または **Scale/↑** を長押しして計測モードに戻る (3秒以上)

点検・清掃

本器を正常で最良の状態でご使用いただくために、日常あるいは定期的に点検・清掃を行ってください。

- 表示部やボタン部が汚れたときは、軽く水を含ませた柔らかい布で拭いてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。変形や変色の原因になります。
- 煙・異臭・異音などの異常がないか確認してください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- 電線が抜けかけていないか定期的に確認してください。安全のため必ず、電源、入力信号、警報出力への通電を遮断してください。
- 本体固定ねじにゆるみがないか定期的に確認してください。ゆるんだまま使用すると落下の原因になります。

困ったときには

故障かな？と思ったら	90
こんな表示がでたら	91
よくあるご質問	92
設定値を初期化する	93
ファームウェアバージョンを確認する	95

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

故障かな？と思ったら

修理のご依頼やお問合せの前に、以下の内容を確認してください。

それでもまだ異常があるときはエム・システム技研のホットラインにご相談ください。

こんなとき	原因	処置	ページ
表示されない	電源電圧は仕様範囲内ですか？	テストなどで電源電圧を確認してください。	—
	正しく配線されていますか？	配線を確認してください。	17 ページ
	電源はきていますか？	停電、ブレーカなどを確認してください。	—
表示がずれる	入力信号は正しい値ですか？	テストなどで入力信号を確認してください。 —入力信号を確認する —入力補正で調整する	104 ページ 85 ページ
	入力線の種類、長さ、太さは3線共同 じですか？	3線共同じ種類、長さ、太さの電線を使用してください。	17 ページ
	避雷器、バリヤなどの内部抵抗を含む 導線抵抗の合計が1線あたり60Ω以 下ですか？	1線あたり60Ω以下にしてください。	17 ページ
	測温抵抗体の規定電流は合っています か？	規定電流0.5mA (Pt1000は0.05mA)以上の測温抵抗 体を使用してください。	17 ページ
	機能設定ステータスの <u>Min</u> または <u>Max</u> ステータスランプが点灯していません か？	最大値・最小値が表示されています。解除してくださ い。	75 ページ
	入力補正値は正しく設定されています か？	入力補正値を確認してください。	85 ページ
入力を入れても表示 が変化しない	入力信号は正しい値ですか？	テストなどで入力信号を確認してください。	—
	機能設定ステータスの <u>Min</u> または <u>Max</u> ステータスランプが点灯していません か？	最大値・最小値が表示されています。解除してくださ い。	75 ページ
計測値が正常範囲に 戻っても警報出力が オフしない	ヒステリシスの設定値が大きな値に なっていませんか？	ヒステリシス設定値を適切な値にしてください。	51 ページ

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

こんな表示がでたら

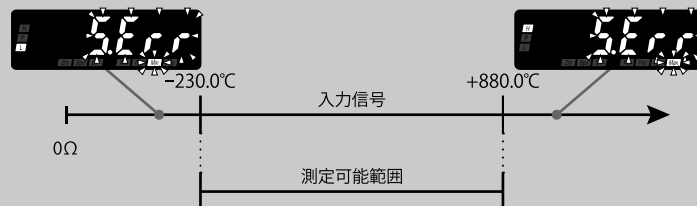
修理のご依頼やお問合せの前に、以下の内容を確認してください。
それでもまだ異常があるときはエム・システム技研のホットラインにご相談ください。

メインディスプレイ	異常内容	処置	ページ
SErr (Scaling Error)	入力が測定可能範囲外です。	入力を測定可能範囲内に戻してください。	104 ページ
rErr (Reading Error)	メモリ読み込み異常です。	プロテクト設定モードで設定値を初期化してください。	93 ページ
wErr (Writing Error)	メモリ書き込み異常です。	プロテクト設定モードで設定値を初期化してください。	93 ページ
iErr (Internal Error)	内部データが異常です。	電源を入れなおしてください。	—
bErr (Burnout Error)	入力線が断線しています。	入力線を確認してください。	17 ページ

MEMO

■ **SErr** について

- ・入力信号の測定可能範囲の最小値または最大値を超えた場合は **SErr** が表示されます。
- ・**SErr** 表示と同時に **Min** または **Max** ステータスランプが点滅します。**Min** ステータスランプ点滅の場合は入力信号が過小、**Max** ステータスランプ点滅の場合は入力信号が過大です。下図では例として、入力信号コード：4 (Pt100 (JIS'97、IEC)) のときの **SErr** 点滅を示しています。



■ **bErr** について

入力線が断線の場合、**bErr** 表示と同時に **Min** または **Max** ステータスランプが点滅します。「バーンアウト下方」に設定の場合は **Min** ステータスランプが点滅、「バーンアウト上方」に設定の場合は **Max** ステータスランプが点滅します。

よくあるご質問

はじめに

試してみる(基本)

こまかく設定する(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

Q 測温抵抗体を記録計に取込んで記録しています。測温抵抗体を2分岐して47NLRにも表示させるにはどうすればよいのでしょうか？

A 測温抵抗体の場合、熱電対のように並列接続で分岐はできません。分岐する方法としては「測温抵抗体をダブルエレメントタイプに変更する」、「2出力形測温抵抗体変換器（形式：W2RSなど）で測温抵抗体入力を一度、2つの直流信号に変換し、その各直流信号に測温抵抗体出力変換器（形式：CVRTD）をそれぞれ接続して2分岐する」があります。必要精度、費用などを考慮して2分岐してください。

Q 測温抵抗体の規定電流は2mAです。47NLRの仕様を見ると検出電流は0.5mA(Pt1000は0.05mA)と記載されています。使用できるのでしょうか？

A 問題なく使用できます。測温抵抗体に電流を流すと抵抗体素子自体が発熱し、これを自己加熱といいますが、測温抵抗体に電流を多く流すと自己加熱が大きくなり測定誤差が大きくなります。測温抵抗体の規定電流が2mAのときは、それ以下の電流であれば自己加熱が小さく測定誤差も小さくなります。ちなみに、現在のJIS規格では0.5mA、1mA、2mAの3種類の電流値が規定されています。他に0.1mAや過去には5mAの測温抵抗体もあります。

Q 測温抵抗体をPt50Ω（JIS'81）（入力信号コード:5）からPt100（JIS'97、IEC）（入力信号コード:4）に変更したいのですが、設定や調整で入力信号コードを変更できるのでしょうか？

A お客様で入力信号コードの変更はできません。新たにご購入いただくか、弊社へご返送いただければ有償にて対応させていただきます。詳しくは、エム・システム技研のホットラインまでお問い合わせください。

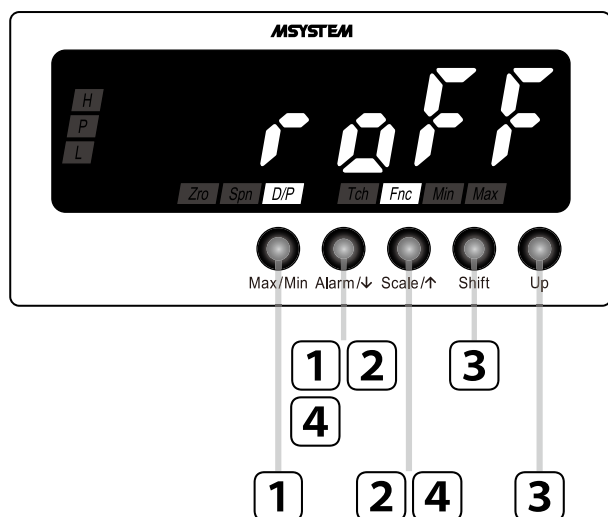
設定値を初期化する

工場出荷時の状態から再度設定をやり直したい場合に「初期化」を利用できます。工場出荷時の値については付録の「パラメーター一覧」をご覧ください。

重要!

- この操作を実行すると現在設定されているパラメータは全て失われます。操作前にパラメータを記録しておくことをおすすめします。
- オプション仕様の「出荷時設定（コード：/SET）」でご指定のパラメータで設定出荷された場合でも、この操作を実行すると付録の「パラメーター一覧」の初期値に変更されます。出荷時の設定内容には戻りませんのでご注意ください。

操作手順



1

Max/Min と **Alarm/↓** を同時に長押しして
プロテクト設定モードに移行する
(任意設定時間以上)

警報プロテクトが表示されます。
D/P **Fnc** ステータスランプが点灯します。



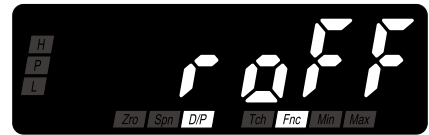
MEMO

設定により **Aoff** または **Ren** が表示されます。

2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して設定値の初期化に移動する

raFF を表示します。

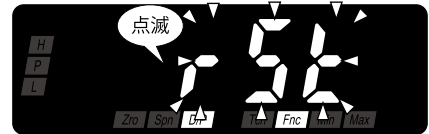
D/P Fnc ステータスランプが点灯します。



MEMO

raFF の最初の R は Reset を意味します。

3 Shift および Up で rSt に変更する



4 Alarm/↓ または Scale/↑ を押して初期化を実行する

約 3 秒後、計測モードに戻り、初期化が終了します。

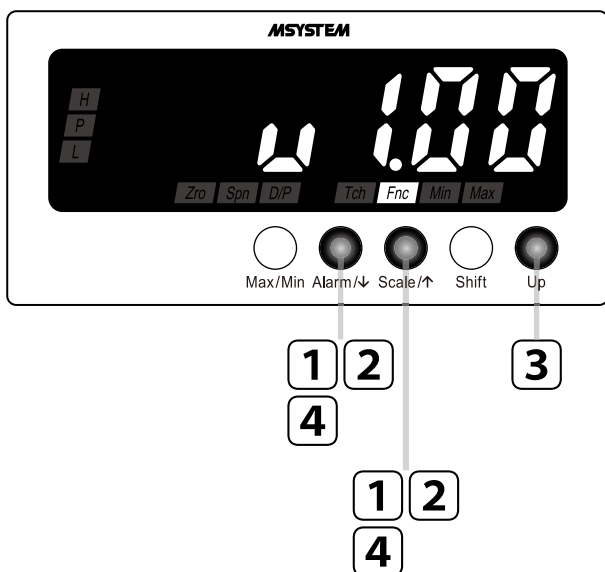
ファームウェアバージョンを確認する

本器のファームウェアバージョンを確認することができます。

次のような場合に利用してください。

- ・表示内容が取扱説明書とおりにならない
- ・トラブルで弊社へお問合わせいただくときにファームウェアバージョンを調べる

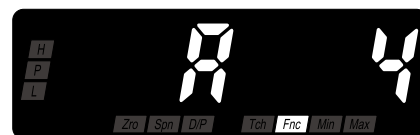
操作手順



1 Alarm/↓ と Scale/↑ を同時に長押しして詳細設定モードに移行する (3 秒以上)

移動平均回数が表示されます。

[Fnc] ステータスランプが点灯します。



MEMO

設定により R OFF R 2 R 4 R 8 R 16 R 32 R 64 のいずれかが表示されます。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

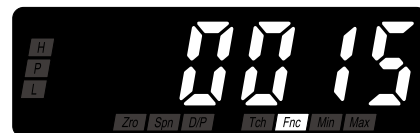
付録

2 Alarm/↓ または Scale/↑ を押してバージョン表示に移動する

本器のファームウェアバージョンを表示します。
 [Fnc] ステータスランプが点灯します。



3 Up を押すと、さらに4桁のバージョンが表示される



MEMO

- 手順2とあわせて、「V1.00.0015」がファームウェアバージョンになります。
- 製品のファームウェアバージョンにより表示内容が変わります。

4 Alarm/↓ または Scale/↑ を長押しして計測モードに戻る (3秒以上)

アフターサービス

アフターサービス	98
保証	99
救済ワイド補償サービス	101

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

アフターサービス

はじめに

調子が悪いと思ったときはまずチェックを

「困ったときには」を参考にして故障かどうかをお調べください。

使ってみる
(基本)

それでも調子の悪いときは

エム・システム技研のホットラインまでお問い合わせください。
お問合せの際には次の内容をご連絡ください。

- ・形式 (MODEL)
- ・機番 (SER No)
- ・ファームウェアバージョン
- ・お買い求めの販売店
- ・異常内容 (できるだけ具体的に)
- ・お名前、会社名、事業所名、部署名、住所、電話番号

本体下面スペック表示

MODEL	形式	MSYSTEM www.m-system.co.jp MADE IN JAPAN 
INPUT		
POWER		
SER No	機番	


NXXXXX

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

お問合せ先

お買い求めの販売店またはエム・システム技研のホットラインへお問い合わせください。

- ・電話でのお問合せ  **0120-18-6321**
または 06-6659-8200
- ・FAX でのお問合せ 06-6659-8510
- ・Eメール hotline@m-system.co.jp

保守

製品送付時の注意事項

チェック・修理などで弊社へ製品をお送りいただくときは、次の事項にご注意ください。

- ・輸送中破損しないよう梱包してください。
- ・本体と付属品の防水パッキン、ストッパも併せてお送りください。
- ・製品送付時には上記「それでも調子の悪いときは」の確認内容をお知らせください。
- ・チェック・修理後お客様へご返却の際は、各パラメータが工場出荷時の状態に戻ります。お送りいただく前に各パラメータを記録しておいてください。

困ったときには

アフターサービス

付録

保証

当社製品のご注文・ご使用にあたり、お客様の購入先にかかわらず、カタログ、仕様書、取扱説明書などに特記事項のない場合には、下記の保証内容、責任の制限、製品ご使用時の注意事項等を適用いたします。

1. 保証内容

(1) 保証期間

当社製品の保証期間は、当社出荷日から 36 か月とさせていただきます。

ただし、「取扱説明書、カタログ等」に別途記載があるものは除きます。

(2) 保証範囲

前項の保証期間内に、通常の設定環境での正常な使用状態において、ご購入いただいた当社製品に万一故障が生じた場合は、納入した製品の代替品との交換または修理を無償で実施いたします。

ただし、故障の原因が以下のいずれかに該当する場合は、この保証の対象から除外させていただきます。

- a) お客様を含む当社以外の者（以下「第三者」といいます）による不適当な使用または取り扱いによる場合
- b) カタログ、取扱説明書、仕様書などに記載された設計仕様、設置条件などを逸脱した使用、取り扱い若しくは保管による場合
- c) 火災、風水害、地震、落雷その他の天災事変、若しくは公害、塩害、煙害、腐食性ガス、異常電圧などの不可抗力に起因する場合
- d) 第三者による当該製品への改造または修理に起因する場合
- e) 指定外の電源使用や他の接続機器の不具合など当社製品以外の原因により生じた場合
- f) 法令で義務づけられた保安・保全業務を怠ったことに起因する場合
- g) 警報装置の動作時などに必要とされる措置を怠ったことに起因する場合
- h) 当社の正規販売店以外から購入されたあるいは購入時に既使用の当社製品の場合
- i) 部品若しくは消耗品の自然減耗、費消または寿命による場合
- j) 当社出荷当時の科学・技術水準では、予見できなかった場合
- k) その他、当社の客観的な判断により当社の責に帰しないと判断される場合

なお、ここでいう保証は当社製品単体の保証を意味するものであり、当社製品の故障により誘発されるシステムおよび接続機器などに関する損害につきましては、補償はいたしかねます。

(3) 当社の保証範囲外の故障

- a) 前項の保証範囲に含まれない当社製品の故障に関しては、特にご要望の場合、修理など有償にて対応させていただきます。
- b) 故障の原因調査および報告書作成は原則としてお受けいたしかねます。ただし、特にご要望の場合は、その実施の諾否を含めて協議させていただきます。なお、これにより原因調査等を実施する場合は原則として有償とさせていただきます、別途実費を申し受けます。

2. 責任の制限

- (1) 当社の製品に関する保証は、当社製品単体の保証に限定されるものとし、代替品との交換または修理による対応に限らせていただきます。
- (2) 当社製品の故障に起因して誘発される計測・制御システムや接続機器などについての損害に関しては、当社は責任を負いません。製品のご返品につきましても、当該製品の販売価格を超えた金銭賠償等はいたしません。
- (3) 当社製品の故障に起因して派生的に生じたいかなる損害（逸失利益、特別損害、間接損害、付随的損害を含む）に関しては、当社は責任を負いません。
- (4) 前 3 項の責任の制限は、当社に対する損害賠償またはその他の請求がこの保証規定、不法行為（過失責任および製造物責任を含む）、契約上の請求またはそれ以外の請求原因にもとづくものであるか否か

に拘わらず適用いたします。ただし、法規上の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。

3. 製品ご使用時の注意事項

- (1) 当社製品は一般産業機器として設計、製造されているものであるため、原子力制御設備、放射線関連機器、鉄道・航空・車両設備、航空・宇宙機器、海中設置機器、若しくは生命維持のための医療機器など、極めて高い信頼性と安全性が要求される用途には使用しないでください。
- (2) 使用されるシステムにおいて、お客様ご自身が、当社製品の定格・性能に対し余裕をもった使い方や、システム全体に対する警報機器、安全機器の設置、安全性を確保した設計を行うなどの安全対策を講じてください。
- (3) 当社の製品を他社の製品と組み合わせて使用される場合、関連する規格・法規または規制、ならびに、使用されるシステム・機械・装置への当社製品の適合性は、お客様の責任においてご確認ください。適合性に関する保証は一切いたしかねます。
- (4) 当社製品が正しく使用されず不測の損害が生じることがないように、取扱説明書ならびに仕様書を必ずご確認ください。その安全に関する使用上の禁止事項および注意事項をすべてご理解いただいたうえで使用ください。それらの禁止事項および注意事項に反する使用をされた場合、当社は一切、当該製品の品質・性能・機能および安全性を保証いたしません。

4. 仕様の変更

当社製品の仕様および付属品は、改善またはその他の事由により、必要に応じて、変更される場合があります。

5. 保証内容の変更

エム・システム技研は、エム・システム技研が適当と判断する方法により、お客様に通知または周知することにより、本保証内容の一部若しくは全部を変更できるものとし、この場合、変更日以降は変更後の保証内容が適用されるものとします。

6. サービスの範囲

当社製品の価格には、技術員派遣などのサービス費用は含まれておりません。技術員の派遣などは、ご要望により別途ご相談させていただきます。

なお、原子力管理区域（放射線管理区域）および被爆放射能が原子力管理区域レベル相当の場所における技術員派遣の対応はいたしません。

7. 適用範囲

以上の保証規定は、当社製品の日本国内での使用に限り適用されます。日本国外でのご使用につきましては、当社カスタマセンターまでお問合せください。

2014年11月5日改定

救済ワイド補償サービス

破損・故障などの不測のトラブルを3年にわたって救済補償いたします。

「救済ワイド補償サービス」は、製品の「一般保証」の対象外となる破損・故障の場合でもサポートするサービスです。

救済例) 電源誤投入、落下、水没、修理、動作チェック

詳しくはエム・システム技研ホームページをご覧ください。

URL <http://www.m-system.co.jp/>

はじめに

使ってみる(基本)

こまかく設定する(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

付録

仕様	104
形式	107
パラメーター一覧	108
パラメーターマップ	110
表示コード	115

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

仕様

機器仕様

構造	パネル取付形	
保護等級	IP66（本器をパネルに取付けたときの、パネル前面に関する保護構造です。ねじ取付の場合のみ準拠します）	
接続方式	スプリング式端子台	
適用電線サイズ	0.2～0.5mm ² 、剥離長 6mm	
ハウジング材質	難燃性灰色樹脂	
アイソレーション	入力ー警報出力ー電源間	
バーンアウト	上方（標準）、または下方のときは設定変更してください	
設定	前面ボタンによるプログラム方式	
設定可能項目	初期設定モード	温度単位、小数点位置、入力補正 A 入力値・補正值、入力補正 B 入力値・補正值
	警報値設定モード	警報出力数、警報設定値、動作、ヒステリシス、動作ディレー、励磁方向、警報動作時の表示
	詳細設定モード	移動平均回数、輝度調整、設定タイムアウト、プロテクト移行時間、バーンアウト、表示更新周期、バージョン表示
	プロテクト設定モード	警報プロテクト、初期設定プロテクト、詳細設定プロテクト、設定値の初期化
平均化処理機能	平均化なし、移動平均	
プロテクト機能	ボタン操作を禁止して誤操作を防止	

表示

表示器	4桁、7セグメントLED、文字高さ 16mm	
表示可能範囲	-9999～9999	
最小表示（設定）単位	0.1℃／1°F	
小数点位置	10 ⁻¹ または小数点なし	
ゼロ表示	上位桁ゼロサプレス	
オーバーフロー表示	測定可能範囲を超えた場合「S.ERR」と、機能設定ステータス「Min」または「Max」を表示して点滅	
バーンアウト表示	「B.ERR」と機能設定ステータス「Min」または「Max」を表示して点滅	
警報判定 ステータス表示	警報判定ステータス L	L 警報時 緑色点灯
	警報判定ステータス H	H 警報時 赤色点灯
	警報判定ステータス P	上記全ての警報判定条件に該当しない場合に橙色点灯 (警報出力数で警報なしに設定した場合、Pのみ点灯します)
機能設定ステータス表示	Zro、Spn、D/P、Tch、Fnc、Min、Max 各機能設定における、モード状態や動作状態を表示。橙色点灯または点滅	

入力仕様

測温抵抗体入力	3線式	
許容導線抵抗	1線あたり 60 Ω以下	
入力検出電流	JPt100 (JIS'89)	0.5mA
	Pt100 (JIS'89)	0.5mA
	Pt100 (JIS'97、IEC)	0.5mA
	Pt50 Ω (JIS'81)	0.5mA
	Pt1000	0.05mA
測定可能範囲 (°C)	JPt100 (JIS'89)	-230 ~ +530
	Pt100 (JIS'89)	-230 ~ +680
	Pt100 (JIS'97、IEC)	-230 ~ +880
	Pt50 Ω (JIS'81)	-230 ~ +679
	Pt1000	-230 ~ +880
精度保証範囲 (°C)	JPt100 (JIS'89)	-200 ~ +500
	Pt100 (JIS'89)	-200 ~ +650
	Pt100 (JIS'97、IEC)	-200 ~ +850
	Pt50 Ω (JIS'81)	-200 ~ +649
	Pt1000	-200 ~ +850

出力仕様

警報出力	出力	フォト MOS リレー
	接点定格	26.4V DC 100mA (抵抗負荷)
	オン抵抗	5 Ω以下

設置仕様

消費電力	直流電源	24V DC	許容範囲 ±10%、リップル含有率 10%p-p 以下、0.7W 以下
使用温度範囲	-10 ~ +55°C		
使用湿度範囲	10 ~ 90%RH (結露しないこと)		
取付	マグネット取付、ねじ取付		
質量	約 85g		

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

仕様 (つづき)

性能 (最大スパンに対する % で表示)

基準精度	±1°C ± 1 digit
温度係数	±0.015% / °C
警報応答時間	0.5s 以下 (警報出力 90% 設定時の 0 → 100% 入力)
バーンアウト時間	10s 以下
電源電圧変動の影響	±0.1% / 許容電圧範囲
絶縁抵抗	入力-警報出力-電源間 100M Ω以上 / 500V DC
耐電圧	入力-警報出力-電源-大地間 1500V AC 1 分間

適合規格

適合 EC 指令	電磁両立性指令 (EMC 指令) (2004 / 108 / EC) EMI EN 61000-6-4 : 2007 / A1 : 2011 EMS EN 61000-6-2 : 2005
----------	--

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

形式

形式コード：47NLR－①②－R③

①入力信号

- 1： JPt100 (JIS'89)
- 3： Pt100 (JIS'89)
- 4： Pt100 (JIS'97、IEC)
- 5： Pt50 Ω (JIS'81)
- 7： Pt1000

②表示色

- R：赤色
- YR：橙色
- G：緑色
- B：青色
- W：白色

供給電源

◆直流電源

- R：24V DC (許容範囲 ±10%、リップル含有率 10%p-p 以下)

③付加コード

◆オプション仕様

無記入：なし

／Q：あり

(オプション仕様より別途ご指定ください)

■オプション仕様

◆出荷時設定

／SET：仕様伺書 (図面番号：NSU-9565) 通りに設定

はじめに

使ってみる
(基本)

こまかく設定する
(応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

パラメータ一覧

設定値欄に設定値を記入してお使いください。

モード	パラメータ名	設定 (モニタ) 範囲	ステータス	設定値	初期値	小数点位置	単位	設定値
計測	現在値	-9999 ~ 9999	[H] [P] [L]	—	—	小数点位置に従う	°C °F	
	最大値	-9999 ~ 9999	[Max]	—	—	小数点位置に従う	°C °F	
	最小値	-9999 ~ 9999	[Min]	—	—	小数点位置に従う	°C °F	
	L 警報設定値	-9999 ~ 9999	[L]	—	—	小数点位置に従う	°C °F	
	H 警報設定値	-9999 ~ 9999	[H]	—	—	小数点位置に従う	°C °F	
初期設定	温度単位	°C、°F	[Fnc]	[C] [F]	[C]	—	—	
	小数点位置	小数点以下 1 桁 (ON)、 小数点なし (OFF)	[DP] [Fnc]	[d on] [d off]	[d on]	—	—	
	入力補正 A 入力値	-9999 ~ 9999	[Zro] [DP] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0000]	小数点位置に従う	°C °F	
	入力補正 A 補正值	-9999 ~ 9999	[Zro] [Tch] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0000]	小数点位置に従う	°C °F	
	入力補正 B 入力値	-9999 ~ 9999	[Spn] [DP] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0000]	小数点位置に従う	°C °F	
	入力補正 B 補正值	-9999 ~ 9999	[Spn] [Tch] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0000]	小数点位置に従う	°C °F	
警報値設定	警報出力数	2 点警報	[H] [L] [Fnc]	[RLn2]	[RLn2]	—	—	
		警報なし	[P] [Fnc]	[RLn0]				
	L 警報設定値	-9999 ~ 9999	[L] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0300]	小数点位置に従う	°C °F	
	L 動作	上限警報、下限警報	[L] [Fnc]	[LnH] [LnLo]	[LnLo]	—	—	
	L ヒステリシス	0000 ~ 9999	[P] [L] [Fnc]	[0000] ~ [9999]	[0000]	—	°C °F	
	L 動作 ディレー	00 ~ 99	[L] [DP] [Fnc]	[00] ~ [99]	[00]	—	秒	
	L 励磁方向	励磁、非励磁	[L] [Fnc]	[rYEn] [rYdn]	[rYEn]	—	—	
	H 警報設定値	-9999 ~ 9999	[H] [Fnc]	[9999] ~ [9999]	[0700]	小数点位置に従う	°C °F	
	H 動作	上限警報、下限警報	[H] [Fnc]	[LnH] [LnLo]	[LnH]	—	—	
	H ヒステリシス	0000 ~ 9999	[H] [P] [Fnc]	[0000] ~ [9999]	[0000]	—	°C °F	
	H 動作 ディレー	00 ~ 99	[H] [DP] [Fnc]	[00] ~ [99]	[00]	—	秒	
	H 励磁方向	励磁、非励磁	[H] [Fnc]	[rYEn] [rYdn]	[rYEn]	—	—	
警報動作時の 表示	点滅なし、約 1.0、約 0.5、 約 0.2、約 0.1	[Fnc]	[b 0] [b 1] [b 2] [b 3] [b 4]	[b 0]	—	秒		

注 1) 計測モードの「現在値」の「ステータス」は、警報出力の動作により点灯するステータスが変わります。

注 2) ステータス欄の図で囲いが「実線」は「点灯」、「点線」は「点滅」を表しています。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

モード	パラメータ名	設定 (モニタ) 範囲	ステータス	設定値	初期値	小数点位置	単位	設定値
詳細設定	移動平均回数	なし、2、4、8、16、32、64	[Fnc]	R 0FF R 2 R 4 R 8 R 16 R 32 R 64	R 4	—	回	
	輝度調整	1 (暗) ~ 5 (明)	[DIP] [Fnc]	L 1 L 2 L 3 L 4 L 5	L 3	—	—	
	設定タイムアウト	00 (設定タイムアウト無効) 01 ~ 99	[DIP] [Fnc]	r 00 ~ r 99	r 60	—	秒	
	プロテクト移行時間	00 ~ 99	[DIP] [Fnc]	P 00 ~ P 99	P 05	—	秒	
	バーンアウト	バーンアウト上方 (U)、 バーンアウト下方 (D)	[Fnc]	bn U bn d	bn U	—	—	
	表示更新周期	00.0 ~ 99.9	[Fnc]	F 000 ~ F 999	F 000	—	秒	
	バージョン表示	—	[Fnc]	—	—	—	—	
プロテクト設定	警報プロテクト	OFF、ON	[DIP] [Fnc]	R 0FF R on	R 0FF	—	—	
	初期設定プロテクト	OFF、ON	[DIP] [Fnc]	r 0FF r on	r 0FF	—	—	
	詳細設定プロテクト	OFF、ON	[DIP] [Fnc]	d 0FF d on	d 0FF	—	—	
	設定値の初期化	OFF、リセット	[DIP] [Fnc]	r 0FF r Sk	r 0FF	—	—	

注2) ステータス欄の図で囲いが「実線」は「点灯」、「点線」は「点滅」を表しています。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

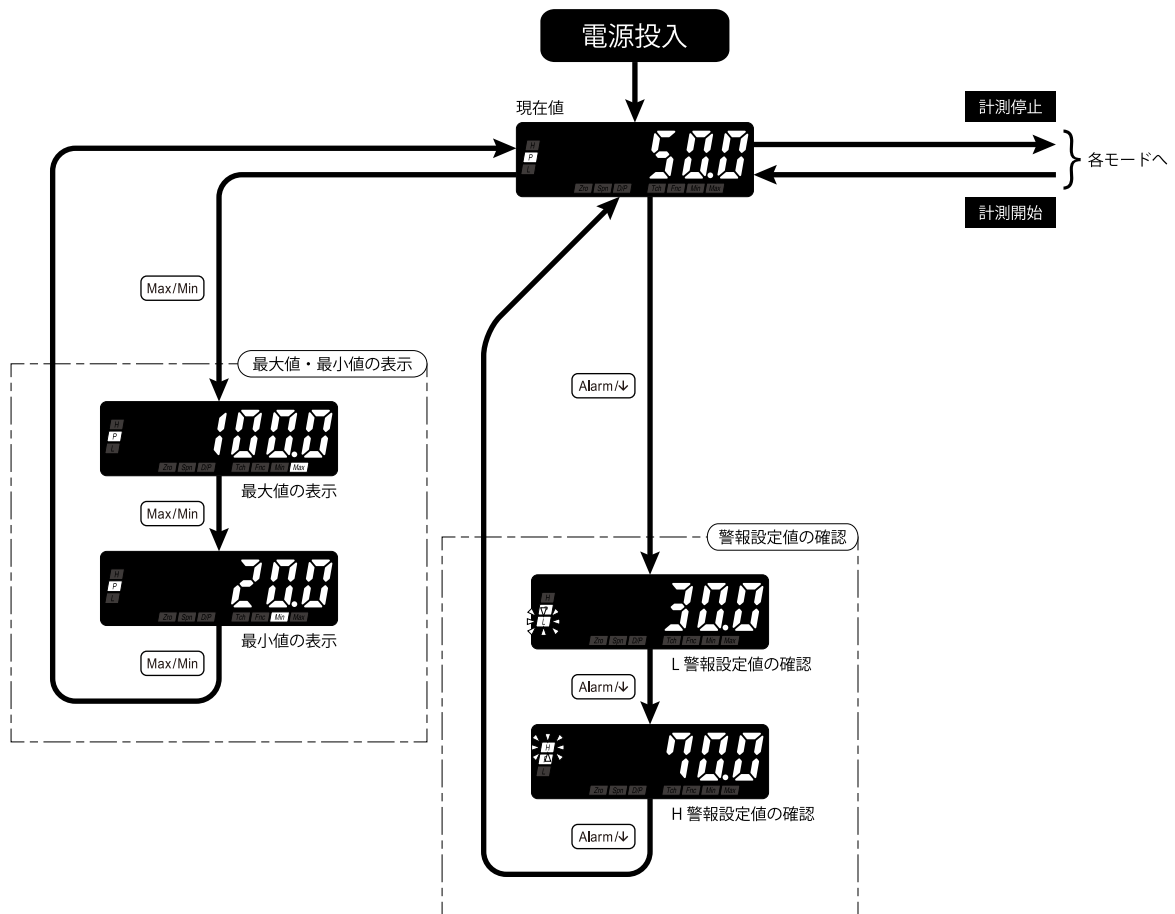
困ったときには

アフターサービス

付録

パラメータマップ

計測モードでの操作



MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。
- 「警報出力数」で「警報なし」を選択したときは、警報設定値の確認はできません。

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

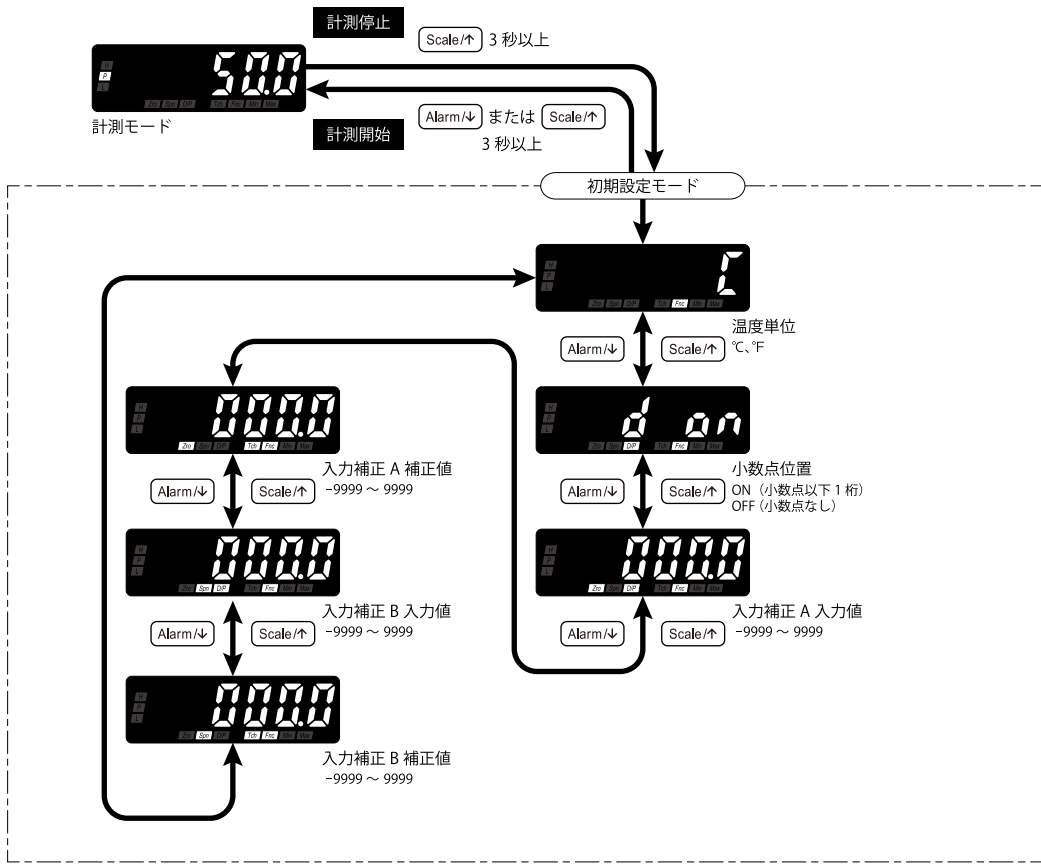
保守

困ったときには

アフターサービス

付録

初期設定モード



MEMO 設定や入力などにより表示内容は変わります。

はじめに
 使ってみる (基本)
 こまかく設定する (応用)
 便利な機能
 保守
 困ったときには
 アフターサービス
 付録

警報値設定モード

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

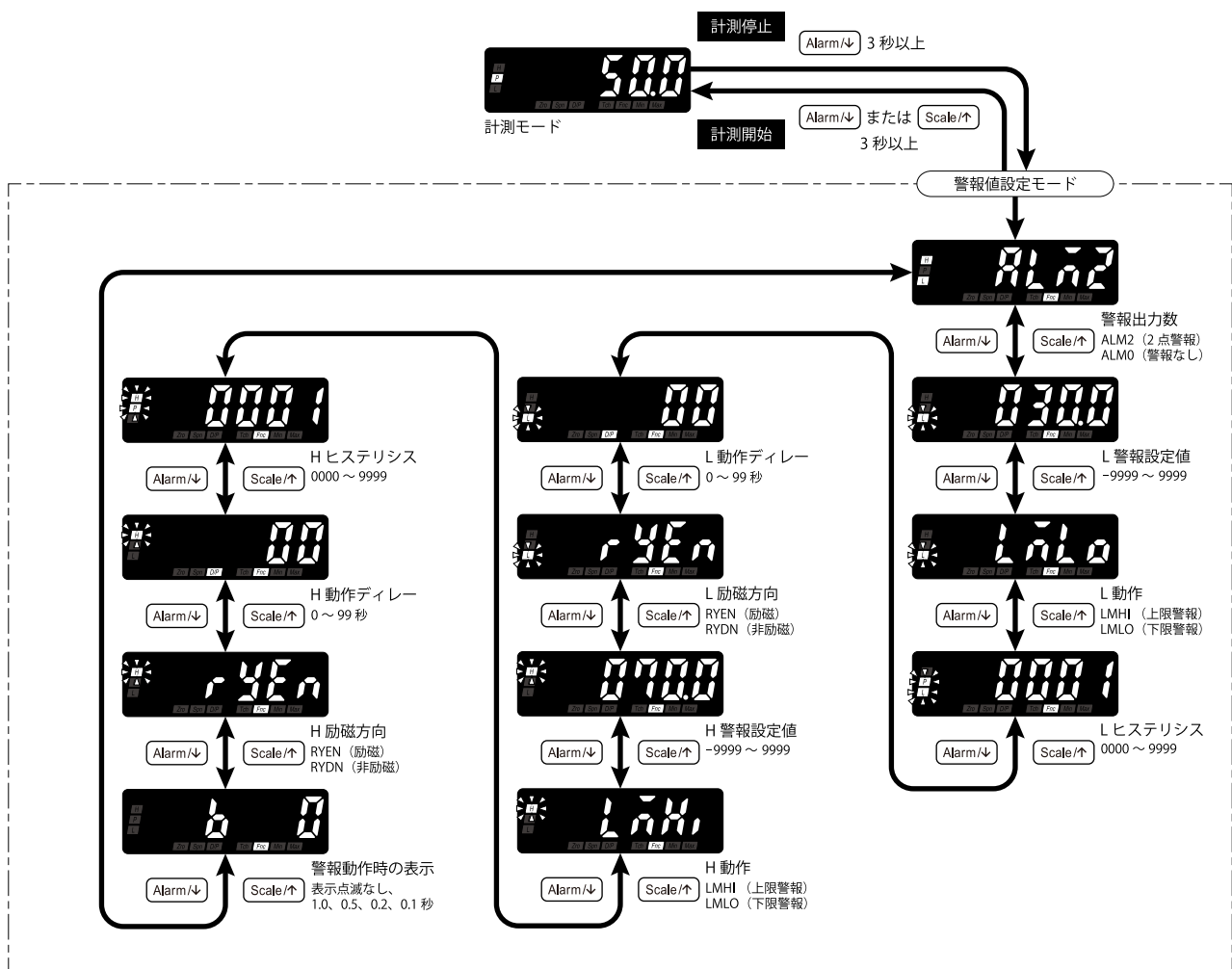
便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

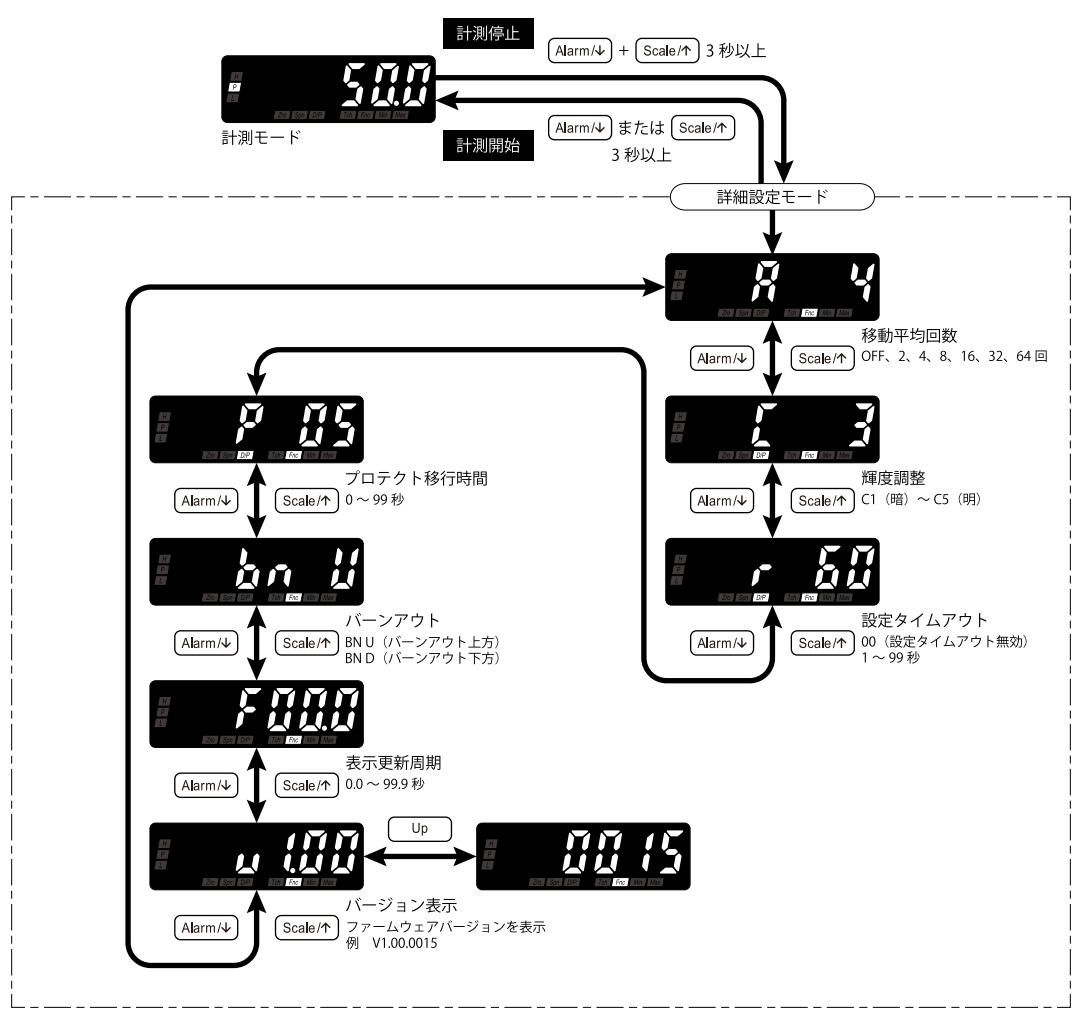
付録



MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。
- 「警報出力数」で「警報なし」を選択したときは、「警報出力数」以外のパラメータには移動できません。

詳細設定モード



MEMO

- 設定や入力などにより表示内容は変わります。
- 「バージョン表示」はファームウェアバージョンの表示のみのため、設定はできません。

はじめに
 使ってみる (基本)
 こまかく設定する (応用)
 便利な機能
 保守
 困ったときには
 アフターサービス
 付録

プロテクト設定モード

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

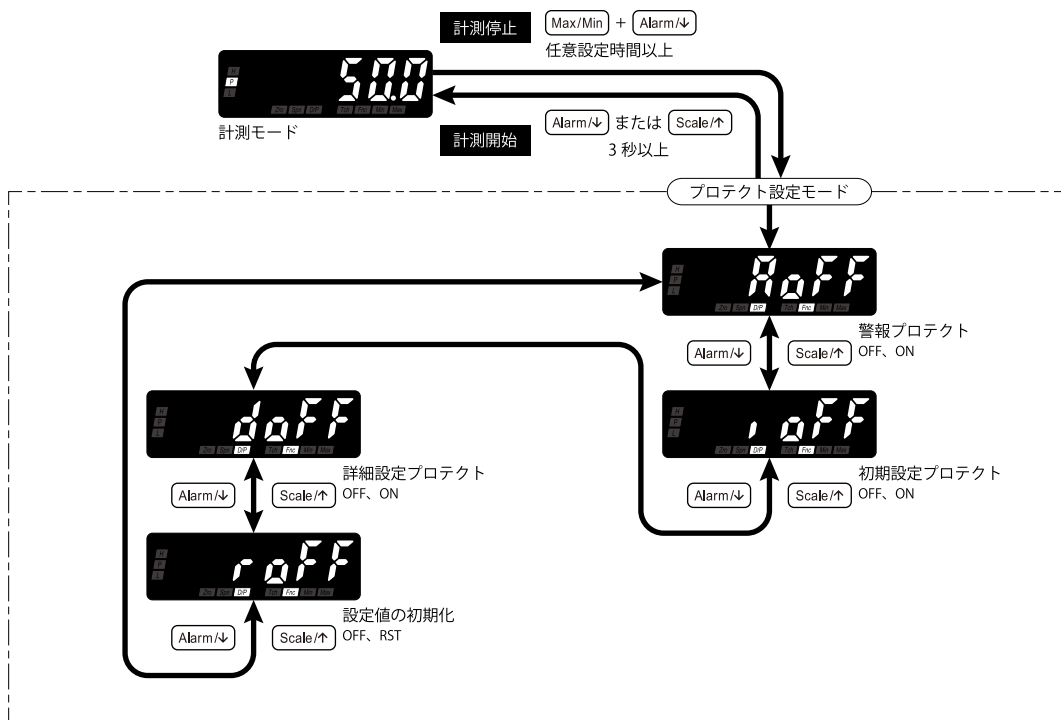
便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録



MEMO

設定や入力などにより表示内容は変わります。

表示コード

数字およびマイナス符号

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
-									
.									

アルファベット

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z				

はじめに

使ってみる (基本)

こまかく設定する (応用)

便利な機能

保守

困ったときには

アフターサービス

付録

販売店

製造販売元

株式会社エム・システム技研

〒 557-0063 大阪府大阪市西成区南津守 5-2-55

TEL : (06)6659-8200

FAX : (06)6659-8510

e-mail : hotline@m-system.co.jp

URL <http://www.m-system.co.jp/>